Japan Hanggliding Federation

社団法人 日本ハンググライディング連盟 発行

バックナンバーは ウェブサイトで▶ http://jhf.skysports.or.jp/



■鈴木康之氏、国際航空連盟賞を受賞。

長くJHF役員をつとめ、フライヤーの育成や技術向上、機材の安全性向上に貢献されてきた鈴木康之さん(東京都)が、国際航空連盟(FAI)のポール・ティサンディエ・ディプロマを受賞することが決まりました。この賞は「団体組織等で指導的役割を果たし、航空スポーツの発展に顕著な業績のあった個人」に贈られるもの。9月21日、東京都新橋の航空会館での平成16年度航空関係者表彰式(財団法人日本航空協会主催)で、その伝達が行われました。航空関係者表彰式は毎年9月20日の「空の日」に行われますが、今年は敬老の日と重なったため21日に。日本航空協会賞の受賞者・FAI賞受賞者の顔ぶれは(財)日本航空協会のウェブサイト(表彰のページ)でご覧ください。http://www.aero.or.jp/

写真1:FAI賞の伝達を受ける鈴木康之さん。 写真2:鈴木康之さん。



■2004年度教員研修検定会を木崎湖で。

10月4日から7日まで、マヌーバーキャンプの会場である長野県大町市木崎湖で、2004年度 JHF教員研修検定会を実施。各地のスクール・エリアで教習活動をしている助教員が参加、 朝から晩までの研修と検定を受けました。今回は教員更新講習員(JHF教習検定委員会の 専門委員)の候補者も参加。この教員更新講習員は、その名のとおり教員の技能証更新時 の講習を担当し、新たに教員検定を受ける助教員のための事前講習も行います。また、安 全性委員会の専門委員も兼務し、各地区の事故調査活動にあたる予定です。



■PG日本選手権、痛恨の不成立。

9月23日から26日まで新潟県吉川町の尾神岳で、2004パラグライディング日本選手権in尾神岳を開催しました(JAA公認、新潟県パラ・ハンググライディング連盟主管)。日本一を決定する大事な大会でしたが、風向に恵まれず、残念ながら不成立に終りました。 写真3:体育館でグライダー審査を。写真4:25日はゲートオープンしたが、雨が降り始めキャンセルに。



■HG & PG競技、2004シーズン終了間近。

10月24日~30日福岡県田主丸町耳納連山周辺でハンググライディングシリーズの最終戦「2004ハンググライディング日本選手権 in 耳納」を開催します。パラグライディングのジャパンリーグも最終戦間近。両競技委員会では、2005年競技ルールの見直しをしています。ご意見は、JHF事務局内、HGまたはPG競技委員会までファクス・メール等で。

写真5:日本選手権4連覇を狙う大門浩二選手。 8ページに大門さんからのアドバイスを掲載。



■2005年3月に総会と役員選挙を実施。

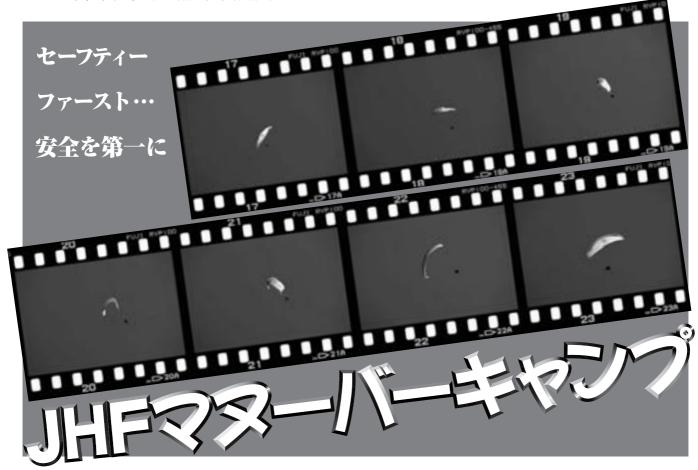
2003年度3月総会で定款の一部改正が決まりました。名称変更と総会回数の変更、役員選任条項の変更ですが、これらは「重要事項の変更」にあたるため、監督省である文部科学省に、再度定款全体の見直しをするよう求められています。理事会は、連盟事業が滞る可能性を考慮し、従来どおり3月に総会と役員選挙を行うことを決定しました。*13ページ参照

JHFレポート 秋号

P2-JHFマヌーバーキャンプP4-なぜ落ちた?!/モーターパラの安全対策について-2P6-重大事故報告P8-もっと楽しくハンググライディング〈1〉P9-2004 LINZHOU PWCセレクションツアー報告P10-正会員だより 神奈川県ハング・パラグライディング連盟P11-正会員情報P12-委員会の動きP13-朝日会長に聞く2004年度のJHF事業/役員選挙についてP14-よりよい組織をめざして理事に聞く瀬戸口裕郎/理事会ダイジェストP15-@sky

JHFレポートはJHFフライヤー会員登録者にお届けしています。

□今年度は季刊
2004年度に限りJHFレポートは年4回の発行になりました。次号は1月
20日発行の予定です。



JHFは、9月10日から10月11日までの1ヶ月間にわたり、長野県大町市木崎湖エリアで「JHFマヌーバーキャンプ」を開催した。

常に「安全」を連盟活動の柱としてきたにもかかわらず、今年は重大事故が続発。 JHFは事故撲滅のための緊急事業のひとつとして、パラフライヤーのためのマヌーバーキャンプの実施を決めた。

講師に迎えたのは、木崎湖でのマヌーバー誘導を3年間で1000回以上こなしてきた大城芳郎さん。その鋭い勘と抜群の

緊急パラシュートの開傘ができる貴重な機会だ。

視力で、参加者を的確に誘導し、ツボをおさえたアドバイスをしてくれる。パラは楽しくなくっちゃという大城流講習にすっかりはまってボランティアスタッフになった人も。

参加資格は、B級練習生技能証以上を 所持するJHFフライヤー会員だが、参加 者の多くはパイロット証を持つ人。初級、 中級、上級、インストラクター講習と、幅 広いプログラムがあるのだから、B級や ノービスパイロット証の人も気軽に参加 すればいいと思うが、やはりちょっと腰 がひけるのかな。

マヌーバーと聞いて「ははあ、アクロバット飛行は、ちょっとねえ……」と思ったあなた、勘違いしてますよ。ピッチング・ローリングから、Aストール・Bストールにフルストール、スパイラルやフラットスピンと、マヌーバーを経験するのは「ええかっこ」するためじゃない。

底知れぬ力を持つ自然のなかで遊ぶパラグライディングでは、予測のつかない事態に陥る可能性がある。そんなこと望まないのにクルクルまわったり、キャノピーがクチャクチャになったり、ギャーたいへんだ!というときに、マヌーバー経験があれば、冷静に対処できるはず。グライダーの挙動から次の事態を予測して、絶叫一歩手前でおさえることもできる。だから、マヌーバー、なのだ。

実際に開傘練習ができない緊急パラシュートも、ここなら開ける。一度でも



ベトナムの人……ではなく、誘導中の大城さん。



初日の朝と、毎日のフライト後にビデオ講習。

開傘を経験すれば、いざというときに きっと役に立つ。「こりゃダメだというと きにすぐレスキューを投げられる、それ だけでも経験する価値がある」と大城さ

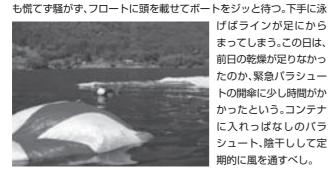
…と、フライヤー心をそそることを並べたが、今年のキャンプは残念ながら終了。願わくば来年度も実施できますように。 (JHF広報出版部 松田保子)

生まれてはじめてレスキューを投げた。

マヌーバー体験はいざというときのため、そして自分の技術を見直すために役立つ。

越智 曉人さん(東京都)

マヌーバー講習を受けるのは3シーズン目。初めてのときは、 とんでもないことをやったつもりでも、実際はそれほどでもな かった。今回は、自分のイメージするグライダーの動きと実際の 動きとが、かなり近くなってきたかな。何度もトレーニングに来 るのは、思ったようにグライダーをコントロールしたいから。ア クロバティックな飛びはしちゃいけないことになってるけど、手 足を動かすのと同じようにグライダーを操れたらいいなあ。 写真:今回の「着水チャンピオン」の座を競った(?)越智さん、着水して



げばラインが足にから まってしまう。この日は、 前日の乾燥が足りなかっ たのか、緊急パラシュー トの開傘に少し時間がか かったという。コンテナ に入れっぱなしのパラ シュート、陰干しして定 期的に風を通すべし。

右近 隆則さん(大阪府)

2シーズン目のマヌーバー講習。参加の動機は、万が一のときに 自信を持って対処したいから。いろいろなことが経験できて、グ ライダーの動きが理解できるようになるから、普段のフライトで も何かあったときでも、以前よりイメージをふくらませて考えら れるんです。回復操作に失敗しても、その経験から「ここまで手に 負えなくなったらレスキュー」というのが身につくし、それだけ でも有意義です。もちろん、ここで学んだことを使わずに済むよ うに飛びたいけど……学んだことを日頃から反芻して、万が一の ときに備えたいですね。あと、友だちがふえるのも楽しい。

写真:受講者は防水袋に入れた無線機をヘルメットに貼付け、フロート (浮力体)をハーネスの胸に付けて飛ぶ。この後、右近さんはライフジャ



ケットを着けて、パラ シュートを開き、ハーネス からの離脱を試みた。ベル トをはずすのに手間取っ て水面からあまり離れて いないところで離脱した が、体だけでの着水は大き な衝撃を感じたとのこと。



麦間 きよ子さん(埼玉県)

マヌーバーは初めて。初級プログラム でトレーニングしました。自分では、思 い切ったコントロールをして、かなり翼 が変形していると思っても、実はそれほ どじゃないんです。それをビデオで客観 的に確認できただけでも、収穫でした。 一日に6本も飛んで、もうクタクタ!



美甘 頼昭さん(鳥取県)

マヌーバーは2回目です。今回、ピッ チング・ローリングのポイントがずれ ていたことがわかったのが、収穫かな。 大きなGのかかるスパイラルを経験す ることと、アクシデントに遭った場合 の回復の練習、この二つが目的だった んだけど、目的にない着水を2回もし ちゃった。本当のマヌーバーの世界を ちょっとのぞいた、かな。生まれてはじ めてレスキューを投げた。うまく開い

てよかった。何日でも講習を受けられるコースにしたんで、また 来るつもりです。次は何をやろうかな。



竹田 亨さん(石川県)

初めてのマヌーバー。昔から一遍来 たいと思ってたんです。パラフライ ヤーは我流で飛んでる人が多いですよ ね。基本に忠実なつもりでも全然違っ ていたり。ここでは、そのズレがはっき りわかります。自分の技術の見直しの ためにマヌーバーに参加するのもいい と思いますね。基本技術がしっかり身

に付いていれば何にでもつながるんですから。教えてくれた大城 さんは、たくさんの情報を持っていて、的確な誘導をしてくれる。 たくさんのことを吸収したいと思います。



井上 美奈子さん(愛知県)

2年前に初めてマヌーバー体験、今回 は2回目です。初めてのときは天気が悪 くて、やりたいことができなかったん だけど、今回はひととおりできました。 マヌーバーを好んでやりたいわけでは ないんです。でも、安全のためにやって おきましょう、と。楽しかったし、すごく いい体験でした。



矢崎 君博さん(山梨県)

マヌーバーは初めてです。すごい勉強 になりました。ここまでやっても大丈夫 という感覚が身に付いたと思う。すぐに 高度を下げたいときは、Bストールを 習ったので、今後はできますね。長くス パイラルするのは無理だけど……。今回 経験したことは、これからのフライトに 役立ちます。グライダーの状態でどんな 感じになるか、わかったから。

DHVによる最新技術講習会&講演会 延期のお知らせ

IHFでは、事故撲滅緊急事業の一環と して、ドイツハンググライディング連盟 (DHV)から講師を招いての最新技術講 習会と講演会を開催する予定でしたが、 延期しました。講師として来日予定だっ たセザックDHV教育部長の健康上の問 題があるため。年度内開催に向けて調整 中。予定はJHFウェブサイトで発表しま す。参加をご希望の方はこまめにチェッ クしてください。



PGだけの人も、HGだけの人も PG&HG両方の人も、教員さんも!

http://www.flyaid.org/

プログライン 二度と繰返さないために 重大事故の原因を知る。

今年の春から夏にかけて重大事故が続 けざまに起きた。なぜ、こんなにたいへん な事故が続くのか? なぜ、このフライ ヤーは落ちたのか? 事故防止のヒント を求めて、日本でハンググライディング が楽しまれるようになって間もない28 年前、1976年からの事故報告書を読んだ。 たくさんの事故を振返り「もうこれ以上、 同じことを繰返す愚をおかしてはならな い」と、あらためて思った。

前号では、過去に起きた重大事故の実 例をあげ、事故の恐ろしさや、ほんの ちょっとしたことが事故につながるのだ ということをフライヤーの皆さんに考え てもらった。今回も続いて、同様のことを 繰返さないために過去の事故を振返ろ う。また、緊急パラシュートの重要さにつ いても考えよう。

以下の事故例で、但し書きがないもの はすべて死亡事故。また、原因の多くは推 測であることをおことわりしておく。

HG:ハンググライダー PG:パラグライダー

■第三者を巻き込む怖さ

見物人や近くの住民を事故に巻き込む こともある。自分だけ痛い思いをするな ら、肉体的な傷も精神的な傷も時間が癒 してくれるだろう。しかし、第三者を巻き 添えにして傷つけてしまったら……。最 悪の場合、命を奪うことになったら、あな たのフライヤー人生は終るだろうし、社 会的将来も危うくなる。金銭的な償いも 必要になるだろう。そして何よりも、他者 を「殺した」という意識とどう向き合うの か。フライヤーの責任において、自分の安 全だけでなく、第三者の安全も守らねば ならない。

□HG 突風にあおられ大きく180度ター ンをしてクラッシュ。グライダーが登山 中の中学生2名に当たり、頭部外傷、打撲 傷を負わせる。本人は手を捻挫。

□PG×HG PGとHGが空中接触し、HG は林に墜落。PGは畑に墜落し、農作業中 の人に接触、軽傷を負わせた。フライヤー は双方軽傷。



基本はもちろん「安全第一 | でも、万一のときの備えは必要!

http://www.flyaid.org/

■グライダー整備点検を怠った結果

ハンググライダー・パラグライダーに も、車の車検のような制度が必要だと考 える人がいる。それほどグライダーの整 備不良や不十分な点検が目立つというこ とだ。どんなに手軽に飛べる翼でも、グラ イダーはあなたの生命を託すもの。プレ フライトチェックを念入りにするのはも ちろんのこと、購入したショップやス クールに頼んで、または相談しながら定 期的に徹底的な点検をすることも大切 だ。ハードなランディングをしたり、木に ひっかかったりしたら、そのまま飛ばず、 きちんと細部を見て触って、必要に応じ てパーツ交換をするのは常識。その際、壊 れた部分を交換して安心しないこと。よ く見えない部分も壊れていることに気付 かず、次のフライト中に空中破損という こともある。

□HG 前年のアウトサイドランディン グで重傷。グライダーの修理と怪我の回 復を待ち、スクーリングエリアでテスト 飛行をした後のフライトで、クロスバー 取り付けボルトが折損、対地高度約50m から落下、岩に頭を打ち付けた。

□HG パーツ交換のためにグライダー をブレイクダウン。再度組み立てる際に 誤り、キールを、セールのキールポケット 前部のみに通し、気付かずにテイクオフ。 プレフライトチェックで組み立てミスを 見落とすほど時間の余裕がなかったわけ ではない。

■事故者の応答に安心するな

誰だってフライト仲間が傷付くのは見 たくない。離れたところに仲間が落ちた ら、まずは無線で大丈夫?と尋ねるだろ う。返事があれば「意識がある。ああ、よ かった!」と思う。しかし、それで安心して はいけない。仲間に迷惑をかけまいと、強 がって大丈夫と答える、あるいは、本人も 自分の体の状態を理解できないでいる場 合がある。

□PG キャノピーを木の枝にひっかけ、 フライヤーは振り子のように幹に激突。 骨折し血管切断。インストラクターが無 線で尋ねると、本人が「血が出ている」と 応答したが……。

■単独フライトは御法度

どんな理由であれ、単独でフライトし てはならない。猿も木から落ちる。腕に自 信があっても、相手は人間が太刀打ちで きるはずもない「自然」だ。何かあったと きに助けてくれる人がいなければ、誰か に発見されるまでそのままだ。無線や携 帯電話が使えるからというのは間違い。

意識を失ったり、体が麻痺した状態で、ど うやって電話をかけることができるの

□PG 単独飛行のため詳細は一切わか らない。墜落しているのを登山者が発見 して涌報した。

□PG フライトエリア開発のために単 独で試験飛行。高度約150mから墜落。詳 細はわからない。

■深い山中に不時着したら

ハンググライダー・パラグライダーは たいてい山で飛ぶ。山中に不時着した経 験を持つ人は少なくないだろう。自力で 下山できないときは仲間に救助してもら い、ビールをおごって、いや、まいったね ……と話のタネになる。しかし、それでは 済まないこともある。深い山の中に落ち、 位置を特定できなかったらどうするか。 GPSがあるから大丈夫? 座標がわかっ ても、無線や携帯電話が使えなければ助 けを求めることはできない。道がわから なくても方角がわかれば……というの は、あまりに安易。里山ですらハイキング や山菜採りに入った人が遭難するのだ。 甘く見てはいけない。

□PG 初めて飛ぶエリア。キャノピーを 潰され、回復できず山中(樹上)に墜落。ス クールに無線で連絡。インストラクター が下山ルートを指示したが、道を間違え た。途中で無線機を紛失。日没とともに行 動を中止し、ビバーク。翌日、無事に発見 される。水を飲めたこと、冬季でなかった こと(5月)は幸いだった。

■あなたは開傘できるか?

ハング・パラグライディングを安全に 楽しむには「予測」することが大切だ。あ の雲だと風が変わりそうだ、この風で飛 んだらどうなるだろう、あちらの斜面に ついたら危険かもしれない、あそこを飛 んでいるグライダーはこっちに飛んでき そうだ……事故を予防するには、さまざ まなことを予測して、危険につながるこ とを避ける。飛行技術を高めるために練 習するのはもちろんだが、同時に、先を読 む能力を高めることも意識したい。

しかし、それでも事故は起きるだろう。 人間はまったくミスをしない生き物では ないから。

グライダーが正常な状態でなくなった とき、あなたならどうするだろう。一生懸 命に回復操作をする? かなり高度があ る場合は、まず回復操作をして、ダメなら 緊急パラシュートを投げると、多くの人 が考えるだろう。ところで、あなたは緊急 パラシュートを開傘したことがあります

か? おそらくはパニックに陥った状態 で開傘できると思いますか?

■大切なシミュレーション

マヌーバーキャンプのような機会がなければ、実際に緊急パラシュートを開く練習はできないが、シミュレーションなら誰でもできる。いつも飛んでいるときのヘルメットやハーネス、フライトスーツに靴、グローブや計器・無線類、すべてを身に付け、シミュレーターにぶら下がり、緊急パラシュートのグリップをつかみ、一気に引いてパラシュートを投げ出す練習をしよう(パラシュートを傷める心配のない場所で行うこと)。

通常の姿勢ではないはずだから、いろいろな格好でグリップをつかんでみる。これが予想ほど簡単ではない。小柄で手の長さが足りない人は、パラシュートの取り付け位置を考えてハーネスを選ぶ必要がある。

グリップを引くのは、かなり力が要る。 女性では力が弱いのと手の長さが足りないのとで、思いっきり投げることができない場合もある。また、グリップを引っ張る方向が悪く、コンテナのベルクロがはがれないこともある。ジャケットでも何でも、ベルクロの付いたもので実験してみよう。横に引っ張っても、なかなかはがれないのがわかるだろう。

投げ出す方向は、当然グライダーとは別の方向だ。咄嗟のときに投げる方向を見極めることができるかどうか、それは状況次第かもしれない。しかし、さまざまな場面を想定してシミュレーションを重ねることが、いざというときの気持ちの余裕につながるのではないだろうか。まったく考えていなかったことに遭遇するのと、イメージしていたことに出くわすのとでは、ビックリする度合いが違うだろう。

■しっかり点検&メンテナンス

プレフライトチェックで、何割の人が 緊急パラシュートをじっくり点検してい るだろう。ブライダルコードを接続して いない、傘体が出ないようにしっかりピンでとめてある、ベルクロがはがれか かっていて離陸した途端に傘体が出てし まう……いざというときの心強い味方に しては、粗末な扱いではないか。

当然リパックも定期的にする。購入先に相談して、忘れずに行うこと。長くリパックしていないパラシュートは湿気を吸ってくっついてしまい、開傘に時間がかかる。たった1秒の違いが生死を分けるようなときに「リパックしておけばよかった」と思っても遅い。

開傘すれば必ず助かると言い切ること はできないが、自分の命を守る努力を惜 しんではならない。

[JHF広報出版部 松田保子]

モーターパラの安全対策について-2 目立たない機材、緊急パラシュートについてひとこと!

JHF補助動力委員会 須藤 彰

フライヤーの必需品でありながら普段の飛行には存在感の無い機材が、緊急パラシュートです。事故無く安全に飛んでいるフライヤーには「お守り代わりに付けている」とまで言われるほど。その構成は、基本的には……

□アウターコンテナ

緊急パラシュートが入っている外側の梱包(袋状や風呂敷タイプ、箱や筒状のものがある)で、ハーネスやベルトに取り付け固定できるようになっている。

□インナーバッグ

ライン及びキャノピーを包む袋。しっかり包んでいながらもキャノピーからの離れがよく、開傘時の邪魔にならないよう作られている。ハーネスや機材に直接セットする場合もある。

□投下用グリップ

インナーバッグを投げ出すためのループ 状のグリップ。ピンなどで誤開傘しない ようセットされているものが多く、飛行 ごとにチェックが必要。

□キャノピー

パラグライダークロス同様の素材で作られているものもあるが、通気性のある生 地を使用しているものが多い。

□サスペンションライン

キャノピー自体の形を保つ重要なラインで、開傘時のねじれやたわみが起こらないよう特に注意が必要。

□ブライダルコード

ハーネスのカラビナに付ける、緊急パラ の最終コード部分。露出していることが 多く、磨耗老化していないか点検が必要。 機種により名称が多少異なりますが、 以上が基本的な緊急パラシュートの構成です。緊急パラは飛行ごとに付けるのが当たり前ですが、モーターパラグライダー(MPG)では、残念ながらその当然のことをしていないフライヤーもいます。

緊急パラシュートは飛行機材の一つであり「これが欠けていては飛べない」という考えを持ちましょう。自分の安全を守る基本です。また、購入時、装着や練習をするときは、以下に留意してください。

■緊急パラシュートのサイズ

サイズは、裸体重ではなく、飛行時の総 重量(体重+パラグライダー+ハーネス +機材ユニット+バラスト+ヘルメット +服装など)を基準に選んでください。

■装着・取り付け位置

装着に関しては簡単に考えていることが多いようですが、これが一番重要です。良い機材を持っていても、取り付け方や位置が悪く使いづらくては、役には立たないどころか、事故、ケガ、いや亡くなることも考えられます。装着はマニュアルどおりに。それが第一条件です!

取り付け位置は、フライト姿勢でグリップをつかみ投げやすい位置(左右どちらの手でもできる位置)を第一に考えます。緊急パラを使用した場合を想像して、ブライダルコードがスムーズに作動し、ねじれや絡み、邪魔にならないコード配置を考えて装着します。

■投傘の練習(イメージトレーニング)

投傘時は、経験パイロットでも興奮状態でパニックに近い状況に陥りやすいので、日頃のイメージトレーニングが重要です。投げ出す状態の姿勢によって、方

向・タイミング等の判断が色々と変わり ますが、勢い良く投げるのが基本です。し かし低空で緊急事態に遭遇したときは、 ためらわず、とにかく投げ離すことです。 タイミングをはかる余裕はありません。

■投傘・開傘の注意点

高度に余裕がある場合は早めに引き出し、リカバリー操作を繰り返しながら緊急パラを勢い良く投げ離します。スパイラルのように急激なダイブに陥った場合、投げ出す方向に注意して自分のキャノピーに放り込まないようにします。振り子状態では外側に放り出すだけで開くこともあり、判断とタイミングが大事です!

開傘して無事降りるまでには、まだ重要な操作があります。不安定な振り子状態や、パラグライダーとの不安定なバランス降下が発生し、コントロールが非常に難しくなることが考えられるからです。

通常、5.0~6.5m/s程度の接地速度で、十分に着地姿勢をとり防護体勢をとり着陸体勢をとることができます。しかしパラグライダーのキャノピーの抵抗が不安定にかかると、緊急パラの理想的な降下状態を作るのが難しく、降下スピードが速くなるなど着陸姿勢・タイミングが非常に難しくなってきます。

万一の事故に備えて欠かせないのは、まずは様々な状況を想定しイメージトレーニングを繰り返すことです。また投傘のシミュレーション練習をすることです。

須藤 彰(すどう あきら) 1990年、独学でMPGを習得。95年にMPG初の東京湾横断飛行。03年、MPG 距離飛行日本記録を更新。JHF補助動力委員。

緊急警告 安全は自分 で守る!! 2

重大事故報告

JHSC事故調査報告より

JHFは「安全で楽しいフライト」を守ろうと、教員の育成・再教育、パイロットの技術や意識の向上のための活動を行っている。また、重大な事故が発生した際には、JHF安全性委員会の事故調査委員が現地に赴き、目撃者証言をはじめとする様々な情報を集めて、どのように事故が起きたのか調査する。以下は、2004年5月と7月の2件の調査報告を要約したものである。事故の場を想像して読み、自分だったら事故を起こさないために何をしたか、遭遇した危険にどう対処したか、よく考えてほしい。

(5月16日に静岡県で発生した動力付きパラグライダーの死亡事故は後日報告。5月19日の山形県でのパラグライダー死亡事故については引き続き調査中。)

HG:ハンググライダー PG:パラグライダー TO:テイクオフ場 LD:ランディング場

■パラグライダー飛行中の墜落事故

事故発生日:2004年5月1日(土) 機体:イーデル式コントロール型Mサイズ(投影翼面積24.8m²)単座パラグライダー

場所:山梨県河口湖町スカイリゾートエリア

事故調查委員:下山進、岡芳樹

1.事故の概要

事故機の飛行経路の詳細は、搭乗していたパイロットが死亡しているため不明だが、目撃証言から、事故機の飛行経過は次のように推定される。

事故機は、2004年5月1日10時40分頃、レジャー飛行のため山梨県河口湖スカイリゾートエリアから、当日の3番目に離陸した。順調に高度を獲得し、背後の尾根(TOの北西側約1km、標高1600m)上空まで到達。尾根上空を飛行しているうちに、尾根を越えてしまい、北西側に位置する芦川村方向(飛行禁止空域)に流されてしまった。その後、高度を失い、尾根を越えてLDに戻れない状況に陥った。

インストラクターは、事故者が尾根の 裏側に入ってしまったため、直接本人と 無線交信ができず、TO北側の尾根上空を フライトしている講習生を中継とし、尾 根裏の乱気流を避けるため、できるだけ 尾根から離れ、北側対岸の釈迦が岳の南 斜面の安全な場所に下りるように指示を した。

11時10分頃、事故者は離陸地点から北 西に約2kmの、山梨県芦川村上芦川、新道 峠付近の沢(谷あいの岩場、標高1255m、 北緯35度32分52.9 東経138度43分17.1) に不時着した。

無線中継をした講習生が無線で呼びかけるが、応答が無かったため、インストラクターが事故者の携帯電話に電話をかけるが留守電状態であった。

上空で飛行していたパイロットの証言では、不時着する少し前まで事故者が高度処理をしていることが目撃されている。しかし、不時着したところは目撃されておらず、不時着に際して失速し落下したか、あるいは激突したかは不明である。不時着した場所は小さな沢(水無し)で、直径50cmほどの岩がごろごろしている場所であった。

不時着した場所が尾根の裏側のために 無線連絡がとれず、不時着場所の特定と 捜索、救助活動に時間を要することにな る。

すぐに回収を兼ね不時着場所の特定のため捜索を開始。15時40分頃、事故者と無線が繋がる。事故者本人の意識はしっかりしていたが、不時着場所の特定はできず。また、動くことができないとのことであった。不時着場所の特定ができないうちに日が暮れ始め、最悪の事態を想定し、18時19分に警察署ならびに消防署に通報した。

18時45分、事故者を発見。19時35分に 救急隊が到着し、救急車で病院に搬送さ れたが、22時16分、骨盤骨折による内出 血により死亡した。

2.事故調査の概要

エリア関係者に事故当時の様子を聴収 した。また、気象状況ほかの関係情報の収 集等を行った。2004年9月3日(金)に事故 現場を検証、不時着場所および飛行コー スの確認を行った。

3.機材の損壊に関する情報

キャノピー、ライン、ライザー各部に損傷 は無い。ハーネス(SUP'AIRエヴォルー ション)およびヘルメットにも損傷は無い。

4.機体に関する情報

型式: イーデル式コントロール型Mサイズ(投影翼面積24.8m²) CTM0210073

製造年月日:2002年10月

耐空証明等:DHV1取得

総飛行時間:不明

総発航回数:不明

飛行重量:最小75kg~最大100kg

5.パイロットに関する情報

男性、62歳。裸体重66kg。

飛行経歴: 2002年9月A級技能証取得、同年11月B級技能証取得、2004年3月NP技能証取得。フライト回数190回、フライト

時間16時間30分。OXYクラブパラグライダースクール所属。

6.気象に関する情報

□事故当時の風向、風速

TO:南東の風2~3m/s(山並みに正対する正面からの風。天候曇り。)

飛行経路:南東の風2~3m/s

LD:南東の風2~3m/s

当日は多くの講習生もフライトしており、気象条件としては問題無い状態であった。

7.考えられる原因

TOの北西側後方にある尾根の稜線を 越えて北側に入り込んだ状況の目撃者が いないため、何故尾根の稜線を越えて飛 行禁止空域に入ってしまったかは不明で ある。

恐らく、順調にセンタリングを続け上 昇していたので、そのままセンタリングを 続けてしまい、サーマルをはずしたところ で向かい風のため稜線を越えられない状 況に陥ってしまったものと思われる。使 用機体が初級機で、高速域での滑空比が あまり良くないことも災いとなった。

以下は推測であるが、事故者は何とか安全に場外着陸をしようと場所を探したが、尾根の裏側であったため気流の乱れと下降風のため滑空比が悪く、無線で指示された釈迦が岳南斜面までは届きそうにないと判断し、飛行可能範囲近くに適当な場所を探したと思われる。

不時着した場所は木を伐採した跡地で、低い落葉の灌木(事故当時は落葉していたため木の無い場所に見えた可能性がある)があるだけで、そばに林道も走っている場所であった。

回収も楽そうに見えたので、その場所 に降ろそうと高度処理を始めた。しかし、 高度が低くなってくると、高い上空から 見たときは良さそうに見えた場所も、か なり狭く、斜面もきついことが判る。しか し既にほかの場所を探すほどの余裕高度 が無くなっていたため、何とかそこに降 ろそうと試みる。最終的にはウインドグ ラジェントあるいは無理やり降ろそうと して失速に入り、沈下速度が増大した状 態で着地。着地した場所にたまたま岩が あったため、ショックが抜けず、骨盤骨折 したものと推察される。ハーネスに全く 擦り傷、破損が見られないことから、足か らまともに着地し、衝撃が骨盤に加わっ たものと考えられる。

無理な不時着をするよりは樹上を狙う という選択の余地があったのではないだ ろうか。

■パラグライダー飛行中の墜落事故

事故発生日:2004年7月4日

機体:アプコ式バギーラⅡ型Sサイズ(投 影翼面積23.3m²)単座パラグライダー 場所:岡山県笠岡市生江浜(おえはま)中 腹(標高140m)

事故調查委員:下山進、岡芳樹

1. 事故の概要

詳細はパイロットが死亡しているため 不明だが、目撃証言から、事故の経過は次 のように推定される。

事故者は、2004年7月4日15時10分頃、レジャー飛行のため、岡山県笠岡市生江(おえはま、標高140m)から離陸し、TOがある尾根上空30m~50mの高度を、他の2機と共に10分程のソアリングをしていた。

15時20分頃、TOの右側、南西方向約200mに位置する標高162mの山頂上空(高度約50m)で、山頂から離れるかたちで左旋回し、南東方向に向き、風に正対する状態で前山後方に飛行した所で、左翼の潰れが発生した。すぐに直ると同時に右翼の潰れが発生し、同時に右旋回のスパイラルダイブへ移行し、3~4旋転しながら山中に消えた。

潰れから墜落時の状況はTO及びLDから複数名のパイロットにより目撃されていたが、墜落直前については、墜落場所がTO及びLDからは死角になり、目撃されていない。墜落場所は森林なので、当初は樹上に墜落したと思われたが、4m四方が伐採された場所に墜落していた。

15時40分頃、クラブ員が現場に到着し 救助活動を開始、心肺蘇生を施す。16時 10分頃、救急隊が到着し病院に搬送。16 時30分頃、搬送先の病院にて死亡が確認 された。

目撃者によれば、事故者は伐採地内に、 機体は斜面上部右方向の1~2mの立木 に、キャノピー上面を上にして覆いかぶ さるように落下していた。このことから スパイラルダイブのまま山の斜面に正対 する状態で激突したと判断される。機体 の損傷状態からも、墜落時に機体の一部 が周囲の立木に引っ掛かり荷重が掛かっ たことが推察される。事故者に外傷は無 く、心臓破裂が死因であった。

事故者は、グライダーをアプコ製プレスタ(AFNORスタンダード)からバギーラⅡ(AFNORパフォーマンス)に乗り換えて5回目の飛行で、総飛行時間は2時間強であった。

尚、レスキューパラシュートの開傘操 作はしていない。

当日は約15名のフライヤーが同エリアでフライトしていた。

2. 事故調査の概要

エリア関係者及び目撃者に事故当時の 様子を聴収した。また、気象状況ほかの関 係情報の収集等を行った。2004年8月22 日(日)に事故現場の検証、LD及びTOか ら飛行コースの確認。2004年9月4日(土)、 堂平スカイパークに於いて事故機体の検 証を下山委員が実施。さらに2004年9月 11日(土)、堂平スカイパークエリアに於 いて飛行特性の検証。破断したライン(ダ イニーマ製)を中継ぎ応急修理後、ライズ アップ特性の確認及びショートフライ ト、高高度フライトを実施した。

3.機材の損壊に関する情報

キャノピー部分:右翼中央から5本目A ラインの付け根両側に小さな破れ2箇所。中央の左右Bラインの付け根の縫製のほつれ2箇所(木に引っ掛かってBラインに荷重が掛かったと思われる)。右翼エアーインテーク上面翼端側に5cmのL字型の破れ1箇所。

ライン・ブレークコード各部:右翼中央から5本目のAライン支索アッパーライン (ダイニーマ製、被覆無し、全長400mm) がキャノピー付け根から264mmの所で 破断。ブレークコード支索ミドルライン が中間部で被覆破れ。

ライザー部:損傷は無い。

計器類:損傷は無い。フライテック製。 ヘルメット:損傷は無い。イカロ製。

ハーネス:損傷は無い。スカイワールド製。 その他:グライダー購入時点の点検(ライズアップ)で左翼C、Dアッパーラインの各1本の前後取り付け違いが発見され、 支索のミドルライン部で修正した(アッパーラインは縫製されているので取り外し不可)。

4.機体に関する情報

型式:アプコ式バギーラⅡ型Sサイズ(投 影翼面積23.3m²) 556568

製造年月日:2004年6月

耐空証明等:AFNOR PERFORMANCE 取得

総飛行時間:約2時間30分(2本目に2時間の飛行)、総飛行回数5回。

飛行重量:最小73kg~最大90kg その他:新機体購入後約1ヶ月

5.パイロットに関する情報

男性、50歳。飛行重量約85kg(体重50kg+装備20kg+鉛ウェート15kg)。

飛行経歴: 2000年5月A級技能証取得。同年7月B級技能証取得、2001年11月NP技能証取得、2003年7月パイロット技能証取得。パラグライダークラブスキッパーズ所属

6.気象に関する情報

□事故当時の風向、風速 TO:南東の風4~6m/s 飛行経路:南東の風5~7m/s LD:南の風4~6m/s

岡山地方気象台によると、岡山県南部には当時、温帯低気圧に変わった台風7号の影響で強風注意報が出ていた。しかし、現地では朝から晴で安定した風であった。

教習生の高々度飛行にも問題ない南東

の風3m/s程の安定した風が吹いていた。 午前中は教習生もフライトしていたが、午後になり2本目のフライトの頃から 風速が増加し5~7m/sになった。同一空域を飛行していた他の2機は前に進まない状態にもなったが、急激な風向、風速の変化、突風等による、明らかな飛行の障害となるような状況は証言されていない。

事故当時は温帯低気圧の影響で風速の 強弱があり、谷合や山肌の形状や傾斜度、 風速によって、所によっては乱流が発生 していたとも思われる。

7.考えられる原因

事故者はグライダーをアプコ社のプレ スタから同メーカーのバギーラⅡに乗り 換えて5回目の飛行であった。乗り換え て間もないことから、翼の挙動及び潰れ に対する対応と回復操作が不慣れであっ たと推察される。また目撃証言から、左右 交互に潰れた状態から推察すると、左翼 が潰れた際に右翼の押さえ操作がされ ず、急激に左旋回に入った。次に潰れた左 翼に対し右翼端の速度が増し、相対的に 迎え角が小さくなった右翼が潰れた。右 翼の潰れにより右旋回に入ると同時に回 復した左翼が増速し、正対風の強さにも 増長され一気に右に流される状態でスパ イラルダイブに入っていったのではない かと考えられる。

当日は温帯低気圧に変わった台風7号の影響で強風注意報が出ていたが、現地では飛行に支障となるような状況ではなかった。観測記録からも南東から東南東の風、風速5m/sであった(瞬間最大風速は不明)。

現地検証を行った8月22日15時頃も、事故日と同等の風向、風速が観測されていたが、TOの風速は4~5m/s前後(上空で5~6m/s)で飛行には問題無く、十数機の飛行を確認したが、乱流等による機体の挙動変化等はほとんど見られず安定していた。

笠岡エリアは海を埋め立てた干拓地の 北西部に位置しており、安定した海風が 入るエリアで、乱流の発生するような障害 物も少なく、教習生でも簡単にソアリング 可能であり、着地場も約200m×600m程 度あり、広大である。

2004年9月11日(土)に埼玉県堂平スカイパークエリアに於いて、ショートフライト、高高度フライトにより事故機の飛行特性の検証を実施。異常は認められなかった。



きめ細かな保障プランは HG&PG専門のJHF共済ならでは!

http://www.flyaid.org/



キングポストレスハンググライダー

調整/チューニングを考える前に

もっと楽しくハンググライディング(1)

大門浩二

近年のキングポストレス機

最近の上級者向けハンググライダーは、キングポストレス機が主流になっています。初期の頃のキングポストレス機は、その構造上の面からも強度とピッチ安定性を重視していましたが、近年の改良と開発によって各メーカーとも軽量化し、コントロール性を向上させて、なおかつ高性能を引き出せるセッティングのグライダーが増えてきています。特に、コントロール特性と性能を両立させるために、VGとスプログ(ダイブスティック)あるいはリミッターを連動させているものがほとんどです。

そのためVGオフのときには、コントロール性を重視し、なおかつサーマルから弾かれたときや低速からのタンブルを防ぐために、しっかりとしたバープレッシャーとピッチ安定を保つセッティングになっています。VGオンの時には最大限の性能を引き出せるようにスプログが下がり、ニュートラル速度が速くなり、バープレッシャーも軽くなります。フルVGでは性能を引き出して、ピッチ安定が保てるぎりぎりのセッティングになっているはずです。

危険な調整/チューニング

このような近年のキングポストレスグライダーを不用意に調整、チューニングすることはとても危険です。タンブルに入ってしまったり、ダイブからの回復が遅れたり、グライダーに強いマイナス荷重がかかり構造破壊に繋がってしまいます。絶対に、不用意に、あるいは見よう見まねでスプログ(ダイブスティック)やリミッターやねじり下げ、バテンキャンバーの変更などの調整・チューニングは

しないでください。不幸な事故の原因と なってしまいます。

こんなことが間違いにつながる

間違った調整やチューニングをしてしまう理由には次のようなこともあるので、充分に注意してください。

- ・普段、フルVGで飛ぶことが少なく、VG オフや少し引いただけの状態のバープレッシャーが、重い、性能が出ないと勘違いして、スプログやリミッターを下げてしまう。
- ・左右のバランスを調整するために、ス プログやリミッターを下げる方向で調 整しすぎてしまう。
- ・ベースバーを強く握り締めすぎ、バープレッシャーを感じ取れないまま、 バープレッシャーが重いと勘違いして しまう。
- ・他のグライダーや他のパイロットより も性能が悪いと感じて、性能アップの ためにチューニングしてしまう。

このような理由から不用意に調整・ チューニングすることは、とても危険 です。

VGオフのときにバープレッシャーが 重く性能が出ないのは当然で、その状態 をベースにチューニングすると、フルVG のときにとても危険な状態になります。

また、バランス調整にはいろいろな要因があります。VGオフのとき、VGオンのとき、低速時と高速時、真っ直ぐ飛ばすためのバランスなのか、ロールインの時か、センタリングの時のバランスなのかによって、調整の仕方が全く違ってきます。それと、中古機として売買されたグライダーは、前のオーナーの感覚で間違ったチューニングがされている機体があった

りしますので、必ずオーバーホールや点 検、テストを行ってください。

絶対にやってはならないこと

そして特に、最も気を付けなければならないのは、性能アップのためのチューニングです。これは絶対にやらないでください。滑空性能は、パイロットの体重やハーネスなどの空気抵抗とパイロットの操縦技術によって大きく異なります。同じグライダーだからといって、見よう見まねで性能アップのチューニングをするのは最も危険です。

確かに、ごく一部のトップパイロットは性能アップのチューニングをやっているかもしれませんが、充分な技術と経験、知識のもとテストを行って、よりリフレックスをつけたり、キャンバーの変ラらないカーボンバテンを使ったり、バラストを積んだりした上で、よりピッチ安定をつけて性能アップを図っているわけではありませんが、コントロールもよりではありませんが、コントロールもより難しくなり、一般のパイロットには逆に楽しめないグライダーのセッティングになっているはずです。

疑問や不安があれば相談を

これらのことを理解して、決して間違った調整や不用意なチューニングをしないように気をつけてください。もし、自分のグライダーに疑問や不安を感じるのであれば、すぐにメーカーや輸入元に相談してみてください。

大門 浩二(だいもん こうじ) 1988年のHG世界選手権初出場以来、国内外の大会で活躍。今秋、日本選手権四連覇を狙う。トップ・エア代表。

中国パイロット台頭の兆しを見た。

2004 LINZHOU PWCセレクションツアー報告

■2万人が祝った(?)開会式

9月8日から14日まで、中華人民共和国 HENAN省LINZHOU市(北京から南西へ 約550km)で、2004 LINZHOU PWCセレ クションツアー兼中国選手権が中国航空 連盟主催で開かれ、日本からも私を含む 10名の選手が参加した。

9月7日、成田空港と関西空港を飛び 立った日本チームは、北京で合流し、一路 リンジョウへ。一夜明けて8日は好天。し かし早い時間から開会式会場にいなけれ ばならず、練習できなかった。恨めし気に 空を見上げながら会場のスタジアムに着 いてビックリ。この日は用水路建設40周 年と市政10周年を祝う世紀の大イベント の日だったのである。我々の大会はその 祝賀記念というわけだ。2万人の市民が 詰め掛け、熱気は最高潮。その中でパラグ ライダー大会の開会式は、刺身のツマみ たいなものだった。



■5日間で5本フライト

リンジョウエリアの景観を一言でいう なら、グランドキャニオンに木が生えた ような感じ。巨大な岩壁が続き、前方には 平野が広がる。タスクは、岩壁でリッジソ アリングを基本に、3~4km沖のパイロ ンをとってまた壁に戻るという具合。テ イクオフポイントは二ケ所あったが、南 のテイクオフは道路の整備不良のため北 のテイクオフのみを使用した。岩壁下、谷 底までの高度差は約850m。ここで、138名 (うち女子12名)が楽しみつつも熾烈な レースを展開した。

□9日 タスク1 53.9kmレース

晴れ。選手はパトカー先導のコンボイ 状態でテイクオフポイントへ。12時15分



ゲートオープン。強めのサーマルで順調 にコマを進めたが、沖のラストパイロン からゴール直行か、壁に戻るかが、勝負の 分かれ目だった。直行組は最後に向かい 風(南風)に阻まれ、最有力のアレックス もゴールできず。私は600mショートで涙 をのんだ。

□10日 タスク2 31.8kmスピードラン

どん曇り。驚くほど視程が悪い。スモッ グだというが、雲の様子も目と鼻の先の 山も見えない。これは無理だと思ったが 競技開始。霞んだ空気の中、皆でサーマル を探し、なんとか雲底らしきものにつけ た。GPSがなければできない芸当だ。結局 ゴール者なし。28kmでフレッドが1位 だった。活躍が期待された高木選手が、普 通にランディングしたはずが足首を傷 め、明日からの飛行を断念。残念だ。

□11日 タスク3 55.6kmレース

曇り。前日より少しましだが視程は悪 い。時々晴れ間もありダミーは雲底に。 ゲートオープンと同時に皆さっさかテイ クオフした。サーマル良好。大会中最高の +8m/s。再びラストパイロンからゴール 直行か壁に戻るかの判断を迫られる。壁 に戻っても低高度では上がれず、ラスト パイロン手前で目一杯上げて、そのまま ファイナルをきったほうがよかった。日 本選手5名ゴール。1位はアレックス。

□12日 タスク4 47.6kmレース

前日と似たり寄ったりの天候。最初は 気張って61.3kmタスクを組んだが、ダ ミーの上がりが悪く下方修正。飛んでみ れば、そこそこのコンディション。後半で またしても直か壁かの決断を強いられ、 皆戻ったが、壁にとりついた高度(タイミ ング)が明暗を分けた。ゴール者ゼロで、 ファブリスが1位。4本合計でアレックス が首位に立った。

□13日 タスク5 53.6kmレース

気象予報は最高だったのに、テイクオ フしてからどんどん陽射しがなくなる。 粘りに粘って、なんとか高度が上がった ときにスタートパイロンをとり、また壁 に戻る。いい高さで戻れた選手は次に進 み、低かった人は諦めて距離を伸ばしに かかった。結果はトップが15km。雲底は 予報より1000mも低い1500mだった。

最後に笑ったのは、やはりアレックス。 安定した強さは健在だ。日本チームでは、 星選手が健闘し6位。河村選手が女子1位 と頑張った。

■あなどれない中国パイロット

5日間の競技で何よりも強く感じたの は、中国のトップパイロットの強さ。5月 のアジア選手権でもそう思ったが、日本 人はウカウカしていられない。反面、オー ガナイザーは国際レベルに達していると は言い難い。スコアリングのトラブルも あった。現時点では未定であるが、2006年 にアジア選手権を開催するなら、かなり 努力が必要だろう。選手の待遇はよく、競 技に専念できた。日本人に対する住民感 情が少し心配だったが、特に問題なく、日 本チームの面々は筆談で和やかにコミュ ニケーションをはかっていた。

視程の悪さと高木選手の怪我は残念 だったが、楽しめる大会ではあった。

岡 芳樹(おか よしき)1974年にHG、86年PG初飛 行。HG・PG振興のため国内外で活躍。JHFのPG競技 委員長。ファルホークインターナショナル代表。

成績

□総合(2位のZHOU選手は中国選手権者に) スイス 4170.00点 1位 HOFER Alex 2位 ZHOU Hongguang 中国 4160.40点 ARA-SOMOHANO Jean フランス 4104.10点 3位 4位 GUNGL Fred オーストラリア 3864.40点 ZHAO Leiming 5位 中国 3807.60点 6位 星 利彦 日本 3698.70点 7位 CHUNG Dong an 韓国 3582.10点 8位 KIM Iin oh 韓国 355370点 PI Suyong 韓国 3537.60点 10位 RINKER Bob アメリカ 3486.00点



トップ6。右端が星選手。

河村選手、みごと女子1位。

□女子 1位 河村 葉子 2位 CHOI Young sook 3位 PARK Junghun □チーム

日本 2942.60点 韓国 2926.40点 韓国 2740.30点

1位 中国 2位 韓国 3位 日本



□日本チームメンバー 岡 芳樹(48位) 前田 悟(30位) 後藤雄大(28位) 星 利彦(6位) 児島 彰(42位) 高木 望(93位) 小林 泰(27位) 川上賢一(32位) 寺尾有貴(14位) 河村葉子(37位/女子1位)



今年6月のJHF総会終了後、JHF社団化10周年記念パーティーが開催されました。当神奈川県ハング・パラグライディング連盟(KHPF)も、早いもので、今年の4月で創立11周年となりました。11年前の設立総会がついこの前の様な気がしますが、ここまで、ほんとうに多くの方々のご協力でなんとかやってこれたと、感謝しています。特にJHFとは密接に協力し合い、またJHFの理事や委員を多数輩出し、まさに10年間を共に歩んできたという思いがあります。

■フライヤーのための連盟

さて神奈川は、県内在住のJHFフライヤー会員登録者数が東京都に次いで全国で二番目に多い県です。そのフライヤーのための組織というのが、当連盟の最も基本的な理念です。それは、当連盟の役員が、事務局以外は、全員が一般フライヤーで構成されていることでも表されています。

この「フライヤーのための連盟」という理念が理解され、おかげさまで一般社会からも多くの評価をいただき、行政機関からの協力も得られるようになりました。それにより、平成10年「神奈川ゆめ国体」のコアイベントとしてのハンググライディング国際大会の開催を始め、昨年には文部科学省および神奈川県主催の「全国アウトドア☆マリンスポーツフェアinかながわ」のイベントを当連盟が主管して開催したりと、多くの社会活動を

行うことができました。

■楽しさを理解してもらう体験会

また、当連盟設立当初より行っている 無料体験講習会は、社会福祉法人こども の国協会のご協力で、横浜市の「こどもの 国」で年間5~7回、そのほか小学校など でも開催しています。

この体験会は、当連盟の普及事業として行っていますが、普及とは、単にフライヤー人口を増やすということではなく、まず、ハング・パラグライダーに無縁の一般の人達に、このスカイスポーツの楽しさを理解していただくことだと、当連盟では考えています。そのためか、この体験会はたいへん好評で毎回満員となり、また何年も継続して行っていることから、



体験会で。参加者もインストラクターも笑顔!

テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、情報誌などのマスメディアにも、取り上げられるようになりました。

■丹沢エリアがビジター受け入れ

次に、これからのことになりますが、来年2005年12月には、秦野市のご協力をいただき、丹沢エリアにて「2005年ハンググライディング日本選手権大会 リジットin 秦野(仮称)」が開催される予定で、現在はその計画や準備に追われています。

その丹沢エリアは、神奈川県内有数のハング・パラグライダーのエリアで、従来は会員制エリアとして県内外のフライヤーに楽しんでいただいていましたが、より多くのフライヤーに楽しんでいただけるように、今年10月からビジターの受け入れを始めました。詳しくは、丹沢スカイクラブにお問合せください。

丹沢スカイクラブのホームページ http://wwwl.ocn.ne.jp/~tanzawa/TSC/

最後に、神奈川県連盟はフライヤーのための連盟として今後も活動していきますので、皆さんのご理解とご協力を、よろしくお願いします。

■神奈川県連盟の連絡先:KHPF事務局

神奈川県足柄下郡箱根町箱根381 出光内 TEL&FAX.0460-3-5391

受付:水曜~日曜 9時~19時

(上記以外は留守番電話にて受付) ◇「県連だより」からタイトルを変更しました。

正会員情報(一个)

■福島県ハング・パラグライディング連盟 [体験会の報告&安全講習会にご参加を]

福島県体育協会主催で、福島県生涯スポーツキャンペーンが行われました。

3年目の今年は会津地方で初めて、8月8日に会津総合運動公園で開催されました。ニュースポーツ体験教室・体験イベントとして17団体が参加し、福島県ハング・パラグライディング連盟も体験会を行いました。

当日は30度を越す猛暑でしたが1611名が来場され、ハング・パラグライダー教室も100名を越す方々が体験しました。今回、生涯スポーツとして各団体と交流ができ、また、大勢の方々に大空の素晴らしさを知っていただくことができ、今後も生涯スポーツとして、ハング・パラグライディングをより安全で楽しいスポーツにしていきたいと思いました。

さて、当連盟主催で11月27日・28日に東和町にて安全講習会を行います。講習で知識を豊富にして、安全フライトを心がけましょう。県連加入者は無料で受講できます。詳細は県連事務局にお問い合わせ/ホームページでご覧ください。

TEL.&FAX.0241-36-3363 (三ノ倉PGスクール内)

http://www.skysports.or.jp/fhf/index.htm [記:事務局 昆野克昭]





体験会で大勢の人に空の素晴らしさをアピール。

■神奈川県ハング・パラグライディング連盟 [第4級アマ無線講習会の参加者募集中]

11月21日・28日に函南町で一般フライヤーが対象の第4級アマチュア無線技士養成課程講習会(講習会番号:B16-624)が開催されます。この講習会はスカイスポーツレジャー飛行におけるアマチュア無線の正しい知識と技能を修得し、無線従事者免許の取得、無線局の開局により、正しい無線機の使用による安全で楽しいフライトの普及・復興を目的としていま

す。最後に行われる修了試験に合格すれば、国家試験免除で「無線従事者免許証」 を取得できます(合格率98~100%)。

主催:(財)日本アマチュア無線振興協会 代行:むせんZONE25

企画:神奈川県ハング・パラグライディン グ連盟

日時:11月21日·28日(2日とも受講) 各日9時~17時

会場: 静岡県田方郡函南町、函南町保険福 祉センター(丹那エリアより車で約 10分)

定員:30名

受講料:22,750円(無線従事者免許証の申 請手数料・教材費を含む)

お問い合わせ:

- ●むせんZONE25 TEL:0558-72-2961 E-mail:info@m-zone25.com
- ●神奈川県ハング・パラグライディング 連盟事務局 TEL&FAX:0460-3-5391 E-mail:khpf5391@m12.alpha-net.ne.jp 「記:理事長 金 仁史」

■石川県フライヤー連盟 [獅子孔高原スカイフェスタの報告]

今年で5回目になる「獅子吼高原スカイフェスタ2004」が7月31日から8月1日の2日間にわたって行われました。

台風の影響が心配されましたが、2日間とも素晴らしいコンディションで仮装フライトができました。石川県内外から28組が参加。優勝はハミングバード(富山県)の「夏と言えば祭りでしょう」。チームワークの良さが光っていました。

今年は、早朝の熱気球体験会の後に、オーストリアのアクロバティックフライトの権威、マイク・クングがランディング場上空1000mのヘリコプターからジャンプし、パラグライダーのパフォーマンスを披



空中ドライブに出発!……楽しい仮装飛行が続々。



表彰される優勝チーム、ハミングバード。

露しました。最後は完璧なアクロバットでランディング。続いて、千田一博さんがスカイダイビング。パラシュートオープンの音が聞こえる程の高度まで落下してからの開傘と、すごいスピードでのスパイラル&正確なランディングに皆さん圧倒されていました。 [記:広報担当 倉和彦]

■大阪府フライヤー連盟

[大会に便乗して大阪府選手権者を]

日本で東京につぐ大都市、大阪!……のはずなのに、ここ数年フライヤー数は激減。スクール関係者も減り、必然的に府連としての活動も縮小。最近は年4回の府連会議さえままならない状態が続いていました。

しかし皮肉にも、JPAが発足して危機感を抱いたのか(?)去年くらいから府連会議の出席者が、なんとか会議ができる程度(?)には増えました。前理事長がJPAの発起人の一人であることから、説明を聞き、素直な意見を言い合った結果、大阪府連としては「お互い良い所は取り入れ、刺激しあって、空を愛する者同志、アプローチの仕方は多少違うにせよ、より多くの人が安全に楽しく飛び続けることができるよう努力していきましょう」という結論を出しました。ただ、もうひとつ団体ができることによるフライヤーの当惑は解決できませんでした。

府連のために動ける方がほとんどいない状況下でもできることとして、大阪府連選手権を他のハング&パラグライディング大会に便乗させてもらい、開催します。今のところ、ハングは和歌山の紀ノ川フライトパークの春関選に、そしてパラは同じく紀ノ川フライトパークで11月6日・7日の週末に開催されるメイヤーズカップに便乗させてもらう予定です。それぞれの大会で、大阪在住で一番よい成績の選手に、大阪府選手権者として賞金を出します。

大阪の皆さん、気軽にご参加ください。 特にメイヤーズカップは、B級練習生や ノービスパイロットのクラスもあり、パ イロット以外の人にもチャンスがありま す(もちろん日本選手権の代表選手には なれませんが)。

まだまだ盛り上がりにかける大阪府連ですが「できることをコツコツと!」で頑張りますので、よろしくお願いします。

[記:理事長 片岡義夫]

◆都道府県連盟(JHF正会員)に参加を

日本全国、各都道府県にはハング・パラグライディングの連盟があります。ぜひ活動にご参加ください。都道府県連盟(正会員)リストはJHFウェブサイトで。

安全性委員会(JHSC)

5月1日に山梨県河口湖町で起きた事 故、7月4日に岡山県笠岡市で起きた事故、 2件の調査が終了しました。この号の6・7 ページに報告が掲載されています。「安全 が第一」を再確認するためにもじっくり 読んでください。

重大事故が発生すると、当委員会では 事故調査委員を派遣し、同様の事故を繰 返さないために調査を行います。教員更 新講習員(教習検定委員会のところを読 んでください)の皆さんが活動を開始し たら、安全性委員会の事故調査委員も兼 務してもらい、各地区の事故調査にあ たっていただく予定です。

教員・助教員に緊急用パラシュートの 点検や使用方法について詳しく知っても らおうと、日本パラグライダー工業会と 合同で「緊急用レスキューパラシュート 点検員研修会」を実施しました。栃木県藤 岡町のアドバンスエアスポーツの協力を いただき、6月30日から7月15日までに3 回の研修会を行い、ハング・パラグライ ダーの製造・輸入・販売およびスクール事 業者の皆さん14名が参加、研修を修了。こ の方たちが緊急用パラシュート点検員と して活動することになりました。この点 検員は、都道府県連盟やスクール・クラブ 等の依頼に応え、フライヤー会員のため に、緊急用パラシュートの使用方法や取 扱いに関するセミナーを行います。セミ ナーをご希望の方は、JHF事務局までご 連絡ください。 [記:下山進委員]

教習検定委員会

当委員会では、以下のように12名の方 に各地区の担当委員をお願いしました。 この地区担当委員の方々には10月4日~7 日、長野県木崎湖での教員研修検定会に 参加していただき、検定会での講習、講義 内容、実技課目の採点、判定基準等の研修 を受け、バラつきのない判定ができるよ うに様々なノウハウを身につけていただ いたうえで、教員更新講習員として活動 をお願いすることになります。

教員更新講習員は、当委員会の専門委 員です。その名のとおり教員の技能証更 新時の講習を担当し、新たに教員検定を 受ける助教員のための事前講習も行いま す。また、安全性委員会の専門委員も兼務 し、各地区の事故調査活動にあたる予定

12地区担当委員が教員更新講習員・事 故調査委員として活動を開始すると、全 国各地で検定会、講習会、事故調査等が実 施できる態勢が整います。

- ◆12地区担当委員(敬称略)
- □北海道地区(北海道):遠藤洋二
- □東北地区(青森・岩手・宮城・秋田・山形・

福島各県):金井誠

- □北関東信越地区(群馬・長野・新潟各県) :毛涯正澄、中台章
- □南関東地区(茨城・栃木・埼玉・千葉各 県、東京都):下山進、中台章、清水勝
- □東海地区(山梨・神奈川・静岡・愛知・岐 阜各県):島野広幸
- □北陸地区(富山·石川·福井各県):松原 彪、江端邦明(事故調查)
- □近畿地区(大阪府、京都府、滋賀・三重・ 和歌山·奈良·兵庫各県):片岡義夫
- □中国地区(岡山・広島・山口・鳥取・島根 各県):坂本三津也
- □四国地区(香川·愛媛·高知·徳島各県): 山野好喜、伊賀隆一郎
- □北九州地区(福岡·大分·佐賀·長崎各 県):小林秀彰
- □南九州地区(宮崎·鹿児島·熊本各県): 小林秀彰
- □沖縄地区(沖縄県):小林秀彰、下山進、 関谷暢人
- *沖縄地区は他の行事に伴って実施する。 *4地区に分けて活動することもある。

[記:下山進委員長]

ハンググライディング競技委員会

2004年ハンググライディングシリー ズは、10月24日から30日まで、福岡県耳納 連山周辺で行われる日本選手権が最終戦 になります。日本選手権が終了した時点 でのランキングにより、来年1月にオー ストラリアで開催される世界選手権の代 表選手も決まります。誰が日本選手権者 となるのか、また、誰が世界選手権への切 符を手にするのか……耳納での熾烈な レースから目が離せません。

委員会の活動ではありませんが、世界 選手権に遠征するパイロットたちを支援 する「ハングエイド2005」の活動も、選手 決定を前に始まりました。ハングフライ ヤーもパラフライヤーの皆さんも、日本 を代表する選手を応援してください。

当委員会では、2005シーズンに向けて 競技ルールの見直しをしています。ぜひ JHFまでご意見をお寄せください。

E-mail:jhf@skysports.or.jp

FAX.03-5840-8312

当委員会の電子メールによる情報配信 (大会情報や速報)が復活しました。ご希 望の方は以下に申し込んでください。 hangglider-subscribe@yahoogroups.jp

[記:峰岸正弘委員長]

パラグライディング競技委員会

8月に10名の選手が中国は林州で開催 されたPWCセレクションツアーに参戦 してきました。そのときの様子はこの号 の9ページに載っていますので、そちら にゆずるとして、再確認したのは韓国の ハドンで行われたアジア選手権でもそう

でしたが、中国選手の技能の高さでした。 選手層が厚いとはいえませんが、トップ の選手たちはかなり手ごわい相手です。

さて、今年の日本選手権は生憎の風向 きで1本も成立せず流れてしまいまし た。これで、Jリーグで成立したのは、春の 朝霧で行われた1本のみという現状で す。週末の天気がいかに全国的に悪いか を証明しています。10月には三つの」リー グ大会が開催されます。来年3月にブラ ジルで開催される世界選手権のチームメ ンバーを選抜するためにも、お天気が味方 してくれることを願わずにいられません。

また、来年度のルールも見直しの時期 となりました。できるだけ参加選手の意 見を取り入れていこうと思っていますの で、多くのご意見をいただけたら幸いで す。ご意見はメールまたはファクスで。

E-mail:seisadao@valley.ne.jp

FAX.03-5840-8312(IHF内)

[記:岡芳樹委員長]

補助動力委員会

1. MPG選手権の実施 2. MPG教員検 定会の実施 3. さらなる広報の充実 こ れが本年度補助動力委員会の活動目標で す。各方面からのご協力により、選手権・ 検定会は例年通り、どうやら開催に漕ぎ 着けましたが「さらなる広報の充実」に関 しては、未だ「効果的な新しい企画」が実 施できない状況が続いています。

新委員による最初の委員会(5月)では、 委員による各地エリアの指導訪問も企画 にあがったのですが、実施には踏み切れ ないでいます。5月から現在(10月)まで 電話・メール等の連絡は頻繁に行ってい ますが、その後一度も委員会は開催でき ず、ホームページの更新も掲載内容が何 もない状態でした。

本年度の補助動力委員会年間予算は10 万円で、大会での委員には日当も交通費 も出せない状態にあります。これは補助 動力委員会に限らず、他常設委員会もか なり厳しい活動状況にあるようです。し かし、予算が無く講習会等が開けない状 況であれば、安全性やモラルの追求など、 お金をかけずに何らかの手段を講じなけ ればなりません。

補助動力委員会の提唱する「フライト モラル、フライトルール」を広報し、さら に充実させていく効果的な方法を模索中 です。全国愛好者の皆さまも画期的な企 画があればぜひご提案ください。

[記:山崎勇光委員長]

個人情報保護法対策特別委員会

個人情報保護法が2005年4月に施行さ れる。その対策を立てるため、9月10日理 事会で、個人情報保護法対策特別委員会 の設置が承認された(P15参照)。

早くも10月。2004年度も下半期に入った。JHFの上半期を振返ると、重大事故が多発し、とにかく事故を防ぐために全エネルギーを投入した感がある。幸い、重大事故続発は途切れたが、これで安心できるわけではない。これでもか!というくらいに事故対策の活動を続けていかねばならない。

安全関連の事業に力が入る一方で、ほかのことはどうなっているのだろうか。 今年度のJHF事業等について、朝日会長 に聞いた。

- ■2003年度3月総会で定款の一部改正が 決まりました。名称変更と総会回数の変 更、そして、所謂「業者」もJHF役員になれ るという役員選任条項の変更ですが、定 款変更は、監督省である文部科学省に届 け出て、認可をもらわねばなりませんね。 認可の見通しは、どうですか?
- ■朝日 総会で改正が決定された定款の三条項は、いずれも「重要事項の変更」にあたります。重要事項を変更するときは、定款全体の見直しが慣例で、最新の「文部科学大臣の所管に属する公益法人の定款作成例」に沿って、再度定款全体の見直しをするよう、文部科学省(生涯スポーツ課)に求められています。一日でも早く認可をいただけるよう、事務局が見直し作業を鋭意行っています。文部科学省への説明にもつとめていますが、もうしばらく時間が必要です。
- ■では、パラグライディングを加えた名 称はまだ使えないのですね。
- ■朝日 文部科学省によって変更が認められない状態では使用できません。世界の流れに鑑み、またパラフライヤーの心情を考慮して、総会決定後、一部でハング・パラグライディング連盟と表記しましたが、現在はハンググライディング連盟にしています。

朝日会長に聞く 2004年度の JHF事業

- ■総会と役員選挙は従来どおり来年3月 に行うのですか?
- ■朝日 これも監督省の認可がまだ出ていない段階では、従来通り3月に実施するしかありません。定款全体の見直し作業を進めつつ、JHF事業に滞りを生じさせないよう見通しを立て、理事会は、3月に総会と役員選挙を行うことにしました。
- ■役員選任条項についても従来のままで ということですね。
- ■朝日 来期役員選挙は従来の決まりの下で行わなければならないということです。その旨、選挙管理委員会に伝えました。既にその準備は進行しています。会員の皆さんには、理事・監事に立候補して、進んで連盟の経営に参加していただきたいと思います。女性の皆さんにも積極的に関わっていただきたいです。
- ■上半期を振返ると、急遽実施した事業 がありますね。
- ■朝日 重大事故の多発に大きな危機感を持って、事故撲滅のための緊急事業として、日本パラグライダー工業界と合同で、緊急用レスキューパラシュート点検員研修会、フライヤー会員対象のマヌーバーキャンプを行いました。レスキューの点検員研修会は事前の告知が十分でなかったことで、ご迷惑をおかけしましたが……
- ■それらの緊急事業の予算はどこから出したのですか?
- ■朝日 事故にストップをかけようと、

急遽計画した事業ですが、これは安全対策の一つとして実施したものです。予算は安全セミナー費と安全対策費を当てています。明細はJHFウェブサイトで公表しますので、ご覧ください。

- ■3月総会で承認された今年度事業計画の中の新事業で、JHF共済会の設立助成やJHFウェブサイトのリニューアルは、既成のものになりました。フライヤー会員へのサービスとして「気象情報の提供」がありましたが、それはどうでしょう? ■朝日 無料ウェブサイトから情報が入手できる現実を考え、実施を再考します。予算を投入するだけの有効なものでなけ
- ■日本のハング・パラグライディング発展のためには、日本パラグライダー協会(JPA)と協力し合うことが不可欠だと考えますが、JPAとの対話は進んでいるのでしょうか?

れば中止することになるでしょう。

- ■朝日 残念ながら対話はできていません。お互いに歩み寄れるところはあると思います。立場と考えの違いを乗り越えて、共に大空を楽しめるようにありたいです。これからも、共に歩んでいける道を探っていきたいと思います。
- ■2004年度下半期は、何に重点を置いて 事業を推進していきますか?
- ■朝日 何よりも事故防止に努力します。過去のデータを見ると、特に春先に事故が多いようなので、今から事故抑制に努めなければならないと思います。一方、もしもの時に備えて共済をスタートさせたので、こちらの方も助け合いの精神でPRしていくつもりです。また、来年度に向けて、JHFの進むべき方向を全員参加の気持ちで考えていきたいと思います。今年度もあと5ヶ月あまりになりましたが、予定されている事業をしっかりと推進するように努力します。

(聞き手:IHF広報出版部 松田保子)

役員選挙について

JHFを経営している現役員(理事・監事)の任期は、来年2005年3月に満了いたします。現定款のまま来年3月にJHF総会が行われることになりましたので、選挙管理委員会は、従来のJHF役員選挙規程に基づき、これまでの選挙と同じ手順で、2005年度新役員の選任手続きを執行いたします。

まず年末に「選挙公示」を告示いたします。選挙公示は選挙のあるJHF総会から約10週間前、という決まりによります。その後2月初旬には立候補締切日が設定され、その四営業日前には、事前審査日を設けます。

JHFの将来を担う新役員への立候補者には、この締切りまでに都道府県連盟を通じて意思表示をいただきたいので、お早めに準備をお願いします。また、選挙公示日にJHFフライヤー会員であることが立候補の条件です。年末に期限切れにならないようご注意ください。

都道府県連盟を通じて役員選任の可否を判断いただくフライヤー会員には、2月半ばに立候補者公示をいたします(JHFウェブサイト、選挙のページで)。投票は、3月半ばのJHF総会の会場で、フライヤー会員の意思を代表したJHF正会員(都道府県連盟)にお願いすることになり

JHF選挙管理委員会から

ます。

選挙公示日ならびに新役員への立候補の状況や事前のお問い合わせについて、 JHFウェブサイトに選挙のページを設置いたします。是非ご活用ください。

選挙公示の詳細を載せた次号のJHFレポートは、立候補締切日より前にお手元にお届けします。もちろん各都道府県連盟の事務局には、期日毎にきちんと正式書類をお送りします。より良いJHFのために、すべてのフライヤー会員に役員選挙への関心をお持ちいただくようお願いいたします。

よりよい組織をめざして——理事に聞く[6]

副会長 瀬戸口 裕郎

JHFの舵取り役である理事一人ひとりに、自らの言葉でその活動を語ってもらいます。今回登場するのは、理事2期目の瀬戸口さん。副会長で、安全性委員会・法務委員会の担当です。

□法務委員会の仕事とは?

現在の法務委員会は、高山事故の裁判 に特化されていて、私と関谷さん(常任理 事)とで裁判関連の準備をするのが仕事 になっています。

本来、法務担当というのは、組織や企業が活動していくうえで、法律的に見て主権の侵害があるとか、逆に主権を侵害する恐れがあるとかいうときに備えて、予めその対応策を練るところです。わかりやすく言えば自分たちの組織を守る集団ということになります。

□安全性委員会に望むことは?

安全性委員会は、立続けに起きた重大 事故の調査で精一杯でした。もっと余裕 を持って、事故予防策を立てるほうが優 先ですけれど。まず一番先に安全のため の対策があって、万一事故が起きたら原 因等を最優先で解明して、フライヤーに フィードバックする。そんな態勢を作っ ていただきたいと思っています。

□事故予防に大切なのは?

まず、フライヤー一人ひとりの自覚だと思います。私たちがやらねばいけないのは、自覚していただくための手助けをすることです。「安全飛行」が連盟の根幹にあり、何を措いてもこれはやらなくてはいけない。安全性委員の方々には、一生懸命対策を考えてくださいとお願いしています。とにかくフライヤー各人に安全方針を徹底することが大切でしょう。

□具体的にはどんなことを?

私個人の考えですが、JHFから都道府 県連盟へ安全講習の講師を派遣すると か、連盟と県連が密接な連携を持つべき です。安全セミナー等をやっておられる ところもあるので、そういったものを全 国に広めていきたいな、と。正直なところ 人手が足りないのですが、手を拱いてい ないで、できることからやっていく。なり ふり構わず、いいと思われることはどん どん、と。大義名分を振りかざしていても しょうがないですから。

□会員の意見を反映させるには?

安全に対する意識を強く持っているフライヤーは少なくないと思うんです。その個々の意見を正会員、つまり都道府県

連盟の方々が集約して、理事会に「フライヤーはこんなことを望んでいるのに、何をやってるの?」と、持ってきていただく。そういう形を作りたいですね。県連の意識を高めてもらうためにも、有益な情報をいち早く県連に流す、それが私たちの命題だと思います。

□JHFのあるべき姿は?

理事就任当初から言っていますが、フライヤーが中心になって動かないと、こういうアマチュア団体は難しいと思います。決して業者の方を排除するというのではなくて。個人的には今のサッカー協会みたいになるといいなと。JHFの中にアマの部分とプロの部分があって、両者が協同していく。今は理想論に過ぎませんが、一歩でも現実に近付けたいですね。

それから、事故調査委員会を完全に独立させること。誰が見ても公平で信頼の置ける調査は、JHFの外から第三者の目でしないといけません。この課題は、任期中に足がかりを作りたいと思います。

■2004年度第2回JHF理事会

日時:2004年9月10日(金)13:30~17:00 場所:JHF事務局会議室

出席理事:朝日和博、荒井稔、伊賀隆一郎、下村孝一、関谷暢人、瀬戸口裕郎 出席監事: 對馬和也 欠席理事:宮田富由 欠席監事: 宮川雅博 議長:下村孝一

□審議事項

1.教習委員の選任について

教習検定委員会の委員空席2名について、 島野広幸氏、中台章氏、2名の立候補があり 選任の審議が行われた。賛成4、反対0、棄権 0で可決。2名の選任が決定した。

2. 賛助会費の値下げについて

賛助会員を増やすため年会費の値下げ案 が提出されたが、再検討することとなった。

3. 自記高度計規程の改定について

自記記録高度計規程の一部を、JAAの規程との整合性を保つために改訂した。賛成4、反対0、棄権0で可決。

4. 個人情報保護法対策特別委員会の設置 及び委員の選任について

2005年4月から施行される「個人情報保護 法」に対する準備のための特別委員会の設置 が提案された。また、委員公募については急を要するために事務局レベルで候補者を募り、金高仁史氏、松田保子氏、市川孝氏、安田英二郎氏、松原正幸氏の候補確認を受けた。 賛成4、反対0、棄権0で可決。

5.補助動力委員会からの答申について

補助動力委員会から①MPG教員検定会を教習検定委員会に代わり補助動力委員会が受け持ちたい。②教員という名称を指導員にして貰いたい。③都道府県連盟の推薦を受けるというところを削除して貰いたいという三つの要望が上がった。これらに対し制度委員会からの答申を含め審議した結果、②と③については現状維持とし、今年度のMPG教員検定会は補助動力委員会に開催してもらうことで決議を取った。賛成5、反対0、棄権0で可決。(この議案より荒井理事参加)

□協議事項

2005年度事業計画について

□報告事項

PG日本選手権について
HG日本選手権について
MPG選手権について
教員研修検定会について
教員更新講習員研修会について
DHV招聘講師研修会について
JHF共済会について
マヌーバーキャンプについて
中国PGーPWCS大会について
PGアキュラシー日本選手権について
高山事故裁判について
定款変更について
JHF組織概要CDRについて
日本航空協会「航空遺産継承基金」について
JHF次年度計画について

JHF役員として、このスポーツの発展に力を!

来年3月の任期満了に伴うJHF役員選挙を行います。役員とは理事と監事のこと。理事はいわば連盟の経営者。監事は、事業がきちんと計画に沿って行われていることをチェックする人。どちらも大切な役目です。連盟に対する不満のある方、理想の組織作りに力を貸したいとお考えの方、JHF役員選挙に立候補してください。選挙公示は今年末の予定です。JHFウェブサイトでお知らせしますので、チェックをお忘れなく。ハング&パラのため、フライヤーの将来のために、ぜひ!



空の情報いろいろありのページ、その名もアット・スカイ。 いつでも心は空の彼方というあなた、必読 / もちろん寄稿も大歓迎。 大会報告、エリア紹介、フライト自慢、名物フライヤー紹介、 JHFへの意見など、どしどし送ってください。

koho@jhf.skysports.or.jp FAX.03-5840-8312

Maurs

■必見!セーフティノーツ

あなたは、JHFウェブサイトの安全性委員会のページで「セーフティノーツ」を見たことがありますか? ドイツハンググライディング連盟(DHV)と提携し、フライト機材の安全に関する非常に重要な情報を掲載している。あなたが使っている機材について、改善が必要なところが載るかもしれない。フライヤー必見。

今年始めから10月上旬までに掲載した 情報は、以下のとおり。

- □耐空性勧告:パラグライダー用緊急パラシュート R32 DHV GS-02-0032-91に関して
- □耐空性改善通報:パラグライダー Mistral 2 22 DHV GS-01-0867-01に関して
- □セーフティノーツ:パラグライダー ハーネス UP式 K2 DHV GS-03-0259-02に関して
- □セーフティノーツ:ハンググライダー Atos C DHV 01-0380-02、Atos CS DHV 01-0394-03に関して
- □セーフティノーツ: ADV ANCE / Gin Gliders / OZONE Gliders / Paratech / Flugsportservice Skyward / Sol Sports / Swing Flugsportgerate / XIX 各社製造の全ての機体に関して
- □警告:パラグライダー・ハーネス用カラ ビナ、Sup'Air社製40mm幅テープ用ツ イストロックタイプのアルミ製カラビ ナに関して
- □セーフティノーツ: UP Europe社製造 の全ての機体に関して
- □安全性勧告:ファルホーク製パラグラ イダー用レスキューパラシュート EMG34, EMGCT37,EMGCT50に関して
- □警告:フリーX製トーイングレリース、 コントロール(DHV06-0027-98)に関して

■JHFからフライト安全指針

厳しい暑さが続いていた8月の4日に、 JHFが「フライト安全指針」を発表した。

第1章はフライヤーの心得、第2章は教員の心得、そして第3章はエリア管理の心得。フライヤーの心得では、事前準備や当日準備、飛行宣言、フライト、フライト後、事故発生時の対応について要点を記している。どれも当たり前のことだが、集中を欠いているときなどは見落としがち。JHFウェブサイトからダウンロード

して、フライトに出かける前は必ず要点 の一つひとつを漏れのないようチェック しよう。

■個人情報保護法対策特別委員会設置

2005年4月に施行される個人情報保護 法の対策を立てるため、9月10日理事会 で、個人情報保護法対策特別委員会の設 置が承認された。また、以下の5名が委員 に選任された。早速9月14日に第1回会議 を開き、担当理事の関谷暢人、事務局を代 表して添石良健が加わり、委員会の役割、 活動の内容と日限等を検討、主に次のこ とを決定した。

- □委員会で扱うのは個人情報保護対策に 限定する。
- □個人情報保護に関する規程案を作成。
 □同注の施行の下での問題占・課題を抽
- □同法の施行の下での問題点・課題を抽出する。
- □2005年2月末の作業完了をめざす。
- □委員:市川孝、金 仁史、松田保子、松原 正幸、安田英二郎

◆種子島ロングビーチで飛ぶ前に

鹿児島県の種子島ロングビーチフライトエリア近くの増田宇宙通信所に、衛星レーザ測距設備(人工衛星の軌道を高精度に決定するためのレーザを使用した距離計測装置)が整備された。この施設ではレーザ光を人工衛星の位置に従って任意な方向に向け、24時間365日通じて放射しており、人間が照射されると、身体(特に眼球)の一部に損傷が発生する可能性がある。ロングビーチエリアで飛行する場合は、必ず事前にエリア管理者、独立行政法人宇宙航空研究開発機構に連絡を!(JHFウェブサイトに地図等を掲載している。)

- □エリア管理者 種子島スカイスポーツ TEL.09972-3-2723
- □宇宙航空研究開発機構 宇宙基幹システム本部 統合追跡ネットワーク技術部 沢辺、内村、中村各氏 TEL.029-868-2610

◆航空の歴史を後生に残そう

1903年のライト兄弟の飛行から100年。 航空は華々しい躍進を遂げてきたが、それを記録したもの(図面や聞き取り記録、 写真、印刷物等)が散逸しつつある。これらは、航空機そのものに劣らず航空文化 を後生に残す貴重な資料であり、また将来に向けて重要な役割を果たすものでも ある。そこで、貴重な航空遺産を守ろうと、(財)日本航空協会が「航空遺産継承基金 | を設立した。

この基金は、航空遺産の収集・調査・保存・公開をめざす。写真や紙資料を持っている人は、下記事務局に連絡を。また、同基金は航空遺産賛助員も募集している。個人の年間賛助金額は一口12,000円(何口でも可)。詳細は航空協会のウェブサイトで。http://www.aero.or.jp/

(財)日本航空協会 航空遺産継承基金事務局 E-mail:isan@aero.or.jp TEL.03-3502-1207 FAX.03-3503-1375

◆ハングエイド2005が発進

来年1月にオーストラリアでハンググライディング世界選手権(クラス1)が開催される。選手選考の大詰めを迎え、今回も有志による「ハングエイド2005」の活動がスタートした。世界選手権遠征には多額の費用がかかり、JHFからの補助金はあるが選手の負担は非常に大きい。そこで選手を応援する人たちにTシャツ&トレーナーを買ってもらい、その売り上げ金を日本チームにカンパしよう!と始まったのが、ハングエイド。下が今回のデザインだ。詳細は、ハングエイド事務局TEL.080-5072-7749に問い合わせ、またはウェブサイトで。

http://www.geocities.jp/hang_aid2005





JHF共済会のインターネット申し込みが整いました。翌日からのフライトに備え、お近くのコンビニエンスストアで申し込みができます。

JHF共済会「FLYAID」ウェブサイト、コンビニエンス加入より、ご希望のプランを入力し、コンビニ支払い用紙をプリントアウトしてください。その用紙をコンビニにお持ちになればご入金ができ、その時点から保障がスタートします。詳細は、http://www.flyaid.org/で。



紹介します! JHSC登録グライダー

国内で使われるパラグライダー・ハンググライダーは、JHF安全性委員会(JHSC)に型式登録されることになっています。今回は7月から9月に登録された4機種を紹介します。各グライダー名の頭についている数字は登録番号です。メーカー(ディストリビューター)からのおすすめ文句☆あり。

◆輸入パラグライダー(7月14日登録)

◇PI-901◇APCO式 KEARA COMP-S型

AFNOR PERFORMANCE/翼面積(投影) 22.7m²/アスペクト比(投影)4.5/飛行重量 71.8~91.8kg/適正技能JHF-P証~

☆KEARAはDHV2の認定を受けた高性能機です。第二のエアインテーク「HIT」とリーディングエッジ補強バテン「FLEXON」を装備し、各社のDHV2-3クラスと同等の性能をDHV2で実現しています。KEARA-COMPは、ラインを被覆の無いコンペティションラインに換装したものです。ラインの空気抵抗を軽減したことで、さらなる高性能が期待できます。

◆輸入パラグライダー(7月14日登録)

◇PI-902◇OZONE式 MOJO XS型

DHV 1GH/翼面積(投影)19.4m²/アスペクト比(投影)3.6/飛行重量55~70kg/適正技能IHF-B証~

◇PI-903◇OZONE式 MOJO S型

DHV 1GH/翼面積(投影)21.3m²/アスペクト比(投影)3.6/飛行重量65~85kg/適正技能IHF-B証~

◇PI-904◇OZONE式 MOJO M型

DHV 1GH/翼面積(投影)23.3m²/アスペクト比(投影)3.6/飛行重量80~100kg/適正技能JHF-B証~

◇PI-905◇OZONE式 MOJO L型

DHV 1GH/翼面積(投影)25.1m²/アスペクト比(投影)3.6/飛行重量95~115kg/適正技能JHF-B証~

◇PI-906◇OZONE式 MOJO XL型

DHV 1GH/翼面積(投影)27.1m²/アスペクト比(投影)3.6/飛行重量110~135kg/適正 技能IHF-B証~

☆新DHV1のMOJOは、これまでの ATOM2のアスペクトを僅かにアップ。 さらにセル数を増やし、より理想的な翼 型を成型しています。旋回特性を改善し、 沈下速度を向上させているため、サーマ ルでの上昇は素晴らしいものになって います。サンデーパイロットはもちろん、 幅広いフライヤーにお勧めです。

◆輸入パラグライダー(9月6日登録)

◇PI-907◇ADVANCE式 OMEGA 6-25型

DHV 2-3GH/翼面積(投影)21.47m²/アスペクト比(投影)4.46/飛行重量70~90kg/適正技能IHF-P証~

◇PI-908◇ADVANCE式 OMEGA 6-27型 DHV 2-3GH/翼面積(投影)23.29m²/アスペクト比(投影)4.46/飛行重量85~105kg/ 適正技能JHF-P証~

◇PI-909◇ADVANCE式 OMEGA 6-29型 DHV 2-3GH/翼面積(投影)25.18m²/アスペクト比(投影)4.46/飛行重量100~125kg /適正技能JHF-P証~

☆ドミニカ・プレでPWC1,3フィニッシュ、PWCイタリアで1,2フィニッシュ、第1回パラグライダーグランプリで全クラス完全優勝。最新の知識に裏付けられた革新の翼、オメガ6が発売開始。PWCの実戦で鍛え抜かれたパフォーマンス、操作に的確に反応するハンドリング、イージーなライズアップ、これらいずれをも損なうことなく全サイズDHV2-3を取得しました。

◆輸入パラグライダー(9月17日登録)

◇PI-910◇GIN GLIDERS式 ZOOM XS型 DHV 2GH/翼面積(投影)21.82m²/アスペクト比(投影)4.34/飛行重量65~80kg/適 正技能JHF-P証~

◇PI-911◇GIN GLIDERS式 ZOOM S型

DHV 2GH/翼面積(投影)23.25m²/アスペクト比(投影)4.34/飛行重量75~95kg/適正技能JHF-P証~

☆2004年春にリリースされたZOOM。 常勝グライダーBOOMERANGの開発から学んだGINのテクノロジーが、ZOOM を完成に導きました。

幅広いスピードレンジでの安定感、効率の良いハンドリング、優れた滑空性能、そして、ストレスのない飛行特性など、ZOOMには新たな可能性が秘められています。

◆プロトタイプパラグライダー

(9月15日登録)〈搭乗者追加〉

◇XP-059◇GIN GLIDERS式 BOOMER-ANG 3 SMプロトタイプ型

追加搭乗者:中野富夫

◇XP-061◇GIN GLIDERS式 BOOMER-ANG 3 MLプロトタイプ型

追加搭乗者:吉川正雄

◆プロトタイプパラグライダー (9月21日登録)〈機体登録〉

◇XP-071◇AIRWAVE式 MAGIC 3-XS (MACRO)プロトタイプ型

指定搭乗者:田中輝実、御手洗美智子、宗像良香 ◇XP-072◇AIRWAVE式 MAGIC FR-SM プロトタイプ型

指定搭乗者:青木和広、鴇田喜代隆 ◇XP-072◇AIRWAVE式 MAGIC FR-M プロトタイプ型

指定搭乗者:原田光康

◆プロトタイプパラグライダー (9月21日登録)〈搭乗者追加〉

◇XP-064◇AIRWAVE式 MAGICTENRACE-M プロトタイプ型

追加搭乗者:柏木一実



KEARA COMP MO



MOJO



OMEGA 6



ZOOM

JHF登録スクール(新規)

■No.122 猪苗代パラグライダースクール(パラグライダー)

〒969-3102 福島県耶麻郡猪苗代町葉山7105

TEL.&FAX.0242-63-0220

info@sportspal.co.jp http://www.sportspal.co.jp

■No.123 S.E.T.茨城(ハンググライダー・パラグライダー) 〒315-0164 茨城県新治郡八郷町小屋576-1 TEL.0299-43-0893 FAX.0299-43-1854 info@set-ibaraki.co.jp http://set-ibaraki.co.jp

台風には勝てなかったが…

去る7月31日から8月1日にかけ、毎年恒例 のあの「鳥人間コンテスト」が、いつものよ うに真夏の琵琶湖で開催された。

当日は台風の影響で5m/s以上の追い風および時折小雨も降る中、まさかこんなときにという条件ではあったが、滑空機部門よりスタート。名テイクオフディレクターの宮浦氏(パラフライヤー)の絶妙な風の読みで、時間がかかりながらも何とか大会を進めていくが、しかし、やはりフォローはフォロー。テイクオフに時間がかかっているうちに風が変わってしまい、琵琶湖に突っ込んでしまうチームが続出。

そんな中、東京都立大学MaPPLがようやく 92mと、ちょっとまともに飛んでみせる。次に まともな滑空を見せたのはチームTINKER の173mだ。その次に飛んだ上智大S.F.Tは見 た感じでは300mほどの、この日一番のフライ



人力プロペラ部門の早稲田大学WASA機。

トを見せるが、サポートがプラットフォームから落ちたため失格。

その後もフォローに泣かされっぱなしでどうにも記録が伸びない。最後は、三連続優勝の滑空機部門最強の、みたかもばらアドベンチャーグループだ。私個人も知り合いのいるこのチームを応援しており、パイロットの大木氏の操縦ならば、たとえフォローでも何とかなると思っていた。しかし、テイクオフの瞬間、突然の追い風にあおられプラットフォームより落下。芸術品とも言うべき機体は見るも無残に粉々になってしまった。選手たちもそうだが、私自身もしばらく呆然。結局、滑空機部門は初出場のTINKERの記録173mが栄冠に輝いた。

また、今年の滑空機部門には、お隣の韓国からも1チームが出場。プラットフォームまでの待ち時間の間に強い追い風で尾翼が壊れそうになり、おもわず番組スタッフが角材を手渡し、これを添えて機体を守れと指示する一場面も。記録は出せなかったものの、今回彼らは日本の鳥人間で多くのことを学んでおり、おそらく来年は素晴らしい機体で再び参加してくるであろう。

日付は変わり8月1日。この日は人力プロペラ部門のみだ。しかし相変わらずのフォロー。しかも雨もぱらついている。そんな中



金沢工大の同軸反転プロペラ機。

でも風の合間を見て人力機は飛んでいくが、うまくテイクオフできても翼が濡れているためか、揚力が効率よく発生しないようで、記録は伸びない。結局、あまりにもフォローが強く、プラットフォームにたどり着くまでに機体が壊れてしまうため競技中止。一番飛んだのは早稲田大学WASAの944mだが、競技中止のために未公認。

今回、6年前に記録を残し鳥人間を去った人力機最強チームエアロセプシーも、予告どおりに再び参加があったものの、この日の条件を見て早々に棄権。その新鋭機を組み立てることもなかった。非常に残念…。しかし、日本の人力機のリーダー的存在、エアロセプシーが再び鳥人間に舞い戻ってきたことは事実だ。また来年に期待したい。

山本 賈(やまもと みつぐ) HGのハーネスデザイナーにして熱い競技者。執筆活動も。EXE代表。 矢ヶ崎 弘志(やがさき ひろし) 航空ジャーナリスト。空のトリビアの源泉。JHSC事務局もつとめる。

1 8 11 20 23 9 16 16 10 17 21 6 14 22 3 15 18 4 7 13 19 19

◆タテのかぎ

- 1 対流現象の一種で、いわば乱流。
- 3 昇降の度合いをはかる ○○○メーター。
- 7 フローリングといえば……
- 8 根っこから吸い上げた養分の通り道。
- 10 グライダーの $\bigcirc\bigcirc\bigcirc\bigcirc$ が気になる。
- 11 降下手段としても使えます。
- 13 鳥の赤ちゃん。
- 14 世の中のことですよね。
- 16 ユーラシア大陸の東のほう。
- 18 柔道のポイントでもあります。 20 探訪記事を略していうと……
- 21 石英等の混合物。赤褐色や白の縞が。
- 21 石央寺の混合物。亦橋巴や日の絹7
- 23 航空○○○を学びましょう。
- 24 ハング/パラで大空を自由に○○。

◆ヨコのかぎ

- 1 インド洋に発生する熱帯低気圧。
- 2 昔はお風呂も沸かしました。
- 4 海面の氷が割れて漂う。
- 5 広い○○はハング/パラ講習に最適。
- 6 待遇のしかた。あつかい。
- 9 ズバリ、かぎです。
- 10 アスリートがめざすメダルの色は?
- 12 斜面上昇風で○○○ソアリング。
- 15 各地の長期に渡る気象の平均状態。
- 16 ○○○計画により人類は月に到着。
- 17 フライヤーには憂鬱な天気。 19 ポーラ○○○を理解しよう。
- 20 七宝の一つで、紫がかった紺色。
- 20 七玉の一つで、茶かかった相色。
- 22 日本人の朝食に欠かせない(?)。

正解者にプレゼント

問題の答えをEメールかファクスまたはハガキでJHF広報出版部パズル係までお寄せください。今回の賞品は図書券(干円分)です。正解者の中から抽選で3名の方にブレゼント。締切りは12月15日(消印有効)。答え・氏名・住所・JHFフライヤー会員番号を明記してください。Eメールの場合、ファイル添付は無効です。正解は次号で。

E-mail:koho@jhf.skysports.or.jp FAX:03-5840-8312

ハガキ:〒112-0003 東京都文京区春日 2-24-11春日Shimaビル

(社)日本ハング・パラグライディング連盟



□前号間違いさがしの答:9ケ所 多数の応募がありましたが、なんと正解者 は宮城県の最上裕子さん唯一人! おめで とうございます、図書券をお送りしました。

□前々号のクロスワードパズルの答え

前号で答え(クロスウインド)を発表しましたが、升に入れる言葉がわからなかった人のために……



@sky

太会報告

🖫 第2回池田山カップ

7月16日~19日

岐阜県揖斐郡池田町 池田山エリア

[総合]

1位	村松	学	茨城県	1019点
2位	永光	秀明	千葉県	1018点
3位	峰岸	正弘	茨城県	997点
4位	桂	敏之	茨城県	979点
5位	鈴木	博司	岐阜県	947点
6位	岡田	伸弘	静岡県	908点
7位	加藤	実	愛知県	854点
8位	大門	浩二	茨城県	828点
「女子	-]			

 1位
 岡田
 明子
 静岡県
 489点

 2位
 小間井みゆき
 茨城県
 248点

 3位
 井出
 有生
 兵庫県
 248点

★日本海に停滞する前線の影響で、西風が 強く、テイクオフポイントではフォロー。上 空も西風が吹き、タスクをクリアするのは 困難な気象条件だった。そんな条件で、初日 こそゴールはゼロだったが、2日目、4日目に はゴールする選手が現れる。しかし全体に わたりDQが低く、最終日まで上位選手の得 点差が少なく、僅か1点差で村松選手が逃げ 切り優勝を飾った。 [報告:山城知幸]

(記) 第14回猪苗代パラグライダーカップ2004 8月7日・8日

福島県耶麻郡猪苗代町 猪苗代PGエリア [総合]

1位 村本 倫子 659点 塚原 隆信 1位 659点 3位 奥谷 敏尚 603点 4位 吉原 薫 586点 5位 了悦 582点 橘 6位 高田 教弘 575点 7位 遠藤 忠一 560点 8位 伊藤 義明 545点 [女子] 1位 村本 倫子 659点 2位 菅野 直子 527点

3位 中目みどり

吉原 紀子

4位.

★初日は荒れた南西風が入り、昼までウェイティングしたが、ゲレンデ上で風がぶつかりあって危険と判断し、三ノ倉エリアに移動した。しかし雷雲が発達し競技はキャンセルとなった。

527点

501点

2日目はやや南西風が入っていたが安定しており、競技開始。1・2本目とも30分のセットタイムだったが、トップアウトした選手が3名と渋いコンディションの中で2本成立した。その中でも今年もK氏のアドバイスがきいてか、村本選手が2本とも粘りの飛行を見せて2連覇を成し遂げた。

今年の大会は前日まで好天に恵まれていたが、寒気の影響をまともに受けた渋いコンディションのもとで10分間が最高のフライトタイムの大会となった。来年は全員が1時間位のフライトを楽しむ大会にしたい。

[報告:山口幸雄]

2004年尾神岳パラグライダー スチューデントカップ

8月18日~20日

新潟県中頚城郡吉川町 尾神岳エリア

★練習日である初日だけ飛べたが、2日目は 強風のため、また3日目は雨と強風のために 飛ぶことができなかった。結局、大会不成立 という残念な結果となってしまった。 [報告:太田達史]

NASA STUDENT CUP 2004

8月25日~27日

茨城県新治郡八郷町 足尾エリア

[1st]

1位	豊田	良平	EROSPAC	1126点
2位	永光	秀明	EPO	1104点
3位	山崎な	惟一朗	EROSPAC	1048点
4 位	田中	元気	EPO	801点
5 位	篠塚	富偉	超革ハン	717点
6位	原田	哲平	広大ハング	688点
7 位	澤田	宗也	FALSADA	568点
8位	茅島	匡	SKY DUST	564点
[2nd]				

1位 川西 博人 アニマルズ 1345.68点 2位 手塚 武尊 Sylph 1335.36点 3位 白井 太郎 EPO 1137.00点 小野 智子 アイオロス 683.64点 4位. 5位 窪添 遥子 フライングチキン 594.72点 6位 菱田 剛史 SKY DUST 491.18点 7 位 鈴木 皓子 ZEPHYR 467 90 点 8位 矢野亥一郎 EPO 445.80点

★今年も足尾エリアでハング学生リーグの 初戦であるNASA STUDENT CUPが開催 された。1stクラスはパイロンレース、2ndクラ スはデュレーション競技を行い、最終日以外 は成立した。条件は初日が一番よく、1stは 24.8kmのタスクで6名がゴール。2日目は午前中の早い時間帯は好条件だったが、次第に雲が増え、30.1kmタスクが組まれたものの残念ながらゴール者は無し。2ndクラスは1位と2位が10点差と白熱した戦いになった。団体戦では日大EPOが優勝を飾った。

[報告:篠塚富偉]

第9回全日本学生PG選手権

2004年9月1日~3日

山形県白鷹町 しらたかスカイパーク [2nd]

 1位 高井 美帆
 早稲田ハング・パラ

 2位 中村 順子
 YUPC

 3位 田貝 圭子
 中大ハング

 [団体]

1位 YUPC

2位 早稲田ハング・パラ

★1日目、2日目ともに悪天候のために競技 キャンセルとなり、選手、スタッフともに白鷹 町や南陽市の観光を楽しんだ。レセプショ ンでは同じパラを愛する者として大学、学 年の壁を越えた交流ができた。

3日目は天候に恵まれ、1st、2ndともに競技を行うことができた。午前中に2ndの競技を行い、高井選手が2位以下に大差をつけて圧勝した。1stはビッグフライトが期待され、約27kmのタスクを組んだが、薄雲がはり、サーマルもたれて、ミニマム達成が2名だけとなり、不成立となった。

第21回あぶくま洞オープンカップHG大会9月18日・19日

ハングルひとくち講座[3]

中国でのサッカーアジア杯の騒ぎについてはいろいろ考えさせられましたが、まずは個人と個人の交流をすることから「次」が始まります。さあ、今回もハングルまる暗記作戦にご参加を。おつきあいの基本、挨拶やお礼の言葉はガイドブック等で憶えてくださいね。

講師は、金要燮(キム・ヨソブ)さん。93年に初来日、現在は東京の外語専門学校で勉学中。パラグライディング歴14年。時間ができると足尾山に飛びに行きます。

私は鈴木一郎ですの巻

私は日本の北海道から来た鈴木一郎です。

나는 일본 북해도에서 온 스즈키 이치로입니다. (ナヌン イルボン ブッケドエソ オン スズキイチロウ インミダ)

私はハンググライダー/パラグライダーパイロットです。

나는 행글라이더/패러글라이더 파일럿입니다. (ナヌン ヘングライド/ペログライド パイロット インミダ)

私は5年前にハンググライディング/パラグライディングを始めました。

나는 5년전에 행글라이더/패러글라이더를 시작했습니다 (ナヌン オニョンジョネ ヘングライド/ペログライドロル、シチャケッスンミダ)

私は600時間の滞空経験を持っています。

나는 600시간의 체공 경험을 가지고 있습니다. (ナヌン ュッペクシカンエ チェコン キョンホモル、カジゴ イッソンミダ)

私は韓国語が話せないので助けてください。

나는 한국어를 할수 없기 때문에 도와 주세요. (ナヌン ハンクゴロル ハルス オップキ テムネ ドワジュセヨ)

○○エリアで飛びたいので、情報をくださいませんか?

00활공장에서 비행하고 싶은데, 정보를 주시지 않겠습니까?

(○○ウァルコンジャンエソ ビヘンハゴ シッポンデ、チョンポロル ジュシジ アンケッソンミカ?)

福島県仙台平エリア

2位 青柳

Lクフ	ス I 」			
1位	杉山	祥一	栃木県	1000.0点
2位	大友	昭範	山形県	887.1点
3位	石井脈	券四郎	福島県	852.9点
4位	岩崎	隆司	東京都	811.6点
[クラ	スV]			
1位	大川	泰右	群馬県	1000.0点
2位	星	一彦	千葉県	888.2点
3位	川田雪	毕一郎	群馬県	500.2点
4位	松本	功	栃木県	437.6点
[クラ	スI女	子]		
1位	松浦	彩乃	埼玉県	271.7点

3位 榊原 彩子 千葉県 53.6点 ★前回より1ヶ月近く前倒しの日程で、暖かく 好条件での大会になった。

福島県

夏美

秋晴れの初日は、雲底まで上昇できる好コンディションでディスタンスパイロン競技を行った。飛行距離は最長40km、高度は最高1300m以上となり、各選手はたいへん満足できたと思われる。2日目は前線通過の影響で残念ながらキャンセルになった。

[報告:松本圭一]

88.7点

第1回九州パラグライダー選手権大会 9月25日

熊本県阿蘇町 カブト岩PGエリア 1位 徳永 昌也 熊本県 160点 2位 吉住 益男 熊本県 160点 3位 上妻 研介 熊本県 160点

★曇り空の下、7.9kmのパイロンレースを。 残念ながらゴール者はいなかった。

「報告:井藤志暢]

カレンダー

| 関:開催場所 | 連:連絡先 | J:ジャパンリーグ対象大会 | S:SPS対象大会 | H:ハンググライディングシリーズ対象大会

11 _F	1						12 _F	3				
MON	TUE	WED	THU.	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	11:U	3	
		J	4	Э	0				-		ა	L
8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	
15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	
22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	
29	30						27	28	29	30	31	

	2003/1月								
FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
3	4	5						1	2
10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
31			²⁴ ⁄ ₃₁	25	26	27	28	29	30

2005/1-

■第19回トオヌップハンググライダー大会

10月23日・24日 圏岩手県遠野市遠野フライトエリア 運藤村洋 TEL&FAX:019-661-4854 E-mail:gliding@excite.co.jp。

☆ 北アルプスパラグライダー大会(J) 10月23日・24日 陽長野県大町市木崎湖

10月23日・24日 勝長野県大町市木崎湖 運北アルプスパラグライダー実行委員会 TEL.048-813-3004 FAX.048-813-3005

E-mail:alps@sentencha.com

(***) 第16回ゼロカップ(S)

10月23日、24日 陽鳥取県河原町霊石山

■ TEL.072-753-8890 FAX.072-753-8830
□ 2004ハンググライディング日本選手権

in耳納(H) *FAIカテゴリー2 10月24日~30日 陽福岡県田主丸町 運(有)デジテック内 森山武美

TEL.092-626-5471 FAX.092-9561-5902

E-mail:moriyama.takemi@nifty.com

(注) 新潟県知事杯争奪尾神岳スカイグランプリ(J)
10月30日・31日 - 陽新潟県吉川町尾神岳

運 新潟県中頚城郡吉川町役場産業課
TEL.0255-48-2311 FAX.0255-48-3011

⚠ 五十崎パラグライダーカップ2004

E-mail:wind-pal@violin.ocn.ne.jp

Pre world cup & Indian national 2004

*FAIカテゴリー2予定

11月4日~9日 陽インド、ビリング

11月21日~23日

圏広島県神の倉山・荒谷山エリア 詳細・申し込みはホームページで。

http://kannokura.dip.jp/peacecup2004/

□ 西日本学生ハンググライダー選手権大会 2004 in 豊田

11月27日・28日

陽山口県豊浦郡菊川町及び豊田町周辺

運大会実行委員会 大石

E-mail:6777@c-able.ne.jp

15回ハンググライディング世界選手権

*クラス1競技 FAIカテゴリー1

2005年1月6日~19日 場オーストラリア、ヘイ

学連だよ!全員集合!!

はじめまして、こんにちは。この度より林田さんからこの欄の担当を引き継ぎました 弘前大学3年の川村寛悟です。今後ともよろ しくお願いします。

さて、今年の学生フライヤーたちの熱い 夏も終わり、皆さんどのようにお過ごしで しょうか? 今年は台風の影響などでイベントが不成立に終わることがありました。 それでも、イベントは座学や他大学との交流で盛り上がり楽しく過ごせ、モチベーションも上がったのではないでしょうか?

これから寒い季節がやってきて、エリアによっては飛べなくなるところもあります。それなら、南のエリアに遊びに、修行を積みに行けば、モチベーションを維持しつつ技術も下げずに過ごせると思います。

そして、来年のイベントでリベンジしましょう! もちろん、今年もまだまだイベントは残っています。どんどん参加して楽しく盛り上げて行きましょう!

■10月~11月のイベント

□ジャムカップ<勝山頂上決戦2004秋> 10月30日・31日 福井県スキージャム勝山

□ピンクカップ

11月6日·7日 山形県十分一山

□西日本HG学生選手権

11月27日・28日 山口県華山エリア

■サークル紹介コーナー

前号から始まったコーナーの2回目です。

私たちfreewaveは、およそ40人と、少し多人数なサークルです。練習は毎週土・日曜日に青森県の大鰐スキー場で練習している、いわゆるサンデーフライヤーの面々です。

すべてのメンバーが、パラグライダー初 心者で入部し、最初のうちは上級生やイン ストラクターの三上さんなどに教わりなが ら、みんなで競い合ってパラグライダーの 腕を向上させています。練習後には汗を流 すために温泉に入ったり、パラができない 日でもみんなで集まり、時間がかかること などものともせず、東北のいたるところに ある温泉に出かける温泉フリーカー達でも あります。

パラは、雪が降るとなかなか練習できません。青森県では、早いと11月には雪が降り始め、練習できる日もとても短く、雪が解け



freewaveはパラ&温泉フリーク集団。

終わるまでの4ヶ月間ぐらいはパラ離れしてしまいますので、パラが再びできる4月になると、みんな感が鈍っていて本当に大丈夫かなと思うときがありますが、なんとかやっています。

freewaveのメンバーは、酒豪がとても多く、東北の人達はお酒を飲む量が半端ではないと噂には聞いていましたが、ここまで飲むとは圧倒されます! お酒に自信がある方は今度freewaveに挑戦してみてください。

最後に、青森では毎年8月に全国でも有名なねぶた祭りが開催されます。メンバー達がこれを放っているわけがなく、他大学の人達も呼び集めて、みんなで一緒に飛び跳ねに行き、とても暑い夜!?を過ごしています。皆さんも次の機会に青森に来て、ねぶた祭りに参加してみてください。とてもいい思い出が作れること間違いなしです!

全国の皆さん、今度遠征などで出会うことがありましたら、ぜひ声をかけてください。一緒にバカ騒ぎしましょう!!

■学連への連絡は……

「学連に加盟したい!」や「もっともっと学連のことを知りたい」などといった学連への意見や応援メッセージはこちらまで。

川村寛悟(弘前大学3年)

e-mail:soranotunagari@msn.com



空のかお その57

智さん 林 (ハヤシ サトシ)



子供たちと過ごす時間も大切にしたい。

東海PGスクールに所属している林さん は、季節や風向きに合わせて長野県の鳥の 倉エリア等、五つのエリアで飛んでいるパ ラフライヤーです。

学生の頃に何回か体験飛行した後は、し ばらくブランクがありましたが、30歳か ら本格的に飛び始めて、今年の8月にパイ ロット証を取得しました。

「気持ちいいんですよね、飛んでて風や自 然を感じることができますし」と語る林さ んが心がけているのは、安全にフライトを し、無事に家に帰ること。

台湾に出張中という多忙な中でも取材 に応じてくださった林さん。今後の目標は 「もっともっと経験を積んで上手くなりた い」とのこと。

安全第一で、いつも笑顔でご家族のもと に帰ってください。

(JHF広報出版部:矢野亥一郎)

情報配信サービスのご利用を!!

JHFからフライヤーの皆さんへ、電子 メールによる情報配信サービス「サーマ ルネット」がスタートしました。様々な情 報を、ご指定のメールアドレスへ配信し ます。JHFウェブサイトから登録を。

9月30日までのフライヤー会員登録数

登録年数	6月30日現在の有効登録数	7月の登録数	8月の登録数	9月の登録数	9月30日現在の有効登録数
1年		543	546	610	
3年		358	391	388	
合計	17,736	901	937	998	16,480

7月~9月の技能証発行数 ()内の数字は発行数中の女性の人数です。

	ハンググライディング						ラグライデ	ィング	
	7月の	8月の	9月の	9月30日まで		7月の	8月の	9月の	9月30日まで
技能証種類	発行数	発行数	発行数	の発行数累計	技能証種類	発行数	発行数	発行数	の発行数累計
練習生A証	5(3)	9(5)	3(2)	12,425	練習生A証	45(11)	65(11)	50(11)	49,778
練習生B証	0	10(6)	2(1)	11,980	練習生B証	35(7)	40(6)	25(5)	44,239
練習生C証	4(1)	6(2)	2(0)	7,212	練習生C証	27(10)	41(13)	24(4)	11,909
P証	4(0)	4(1)	4(0)	5,122	P証	28(6)	31 (9)	20(5)	20,882
補助動力証	0	1 (0)	0	34	補助動力証	1 (0)	0	1 (0)	874
XC証	2(0)	1 (0)	5(0)	1,251	XC証	3(0)	6(1)	6(1)	4,436
タンデム証	1 (0)	0	0	54	タンデム証	3(0)	4(0)	6(0)	985
				•		モーター	-パラグラ	イディン	グ
					P証	0	3(0)	4(0)	296

連絡ノート **JHF** フライヤー

■事務局は年末年始休業します

2004年12月29日(水)から2005年1月3日 (月)まで、JHF事務局は業務を休みます。各 種の申請やお問い合わせは早めにお済ませ ください。

■大会・助教員検定会等を計画中の皆様へ

公認・後援大会、助教員検定会、検定委員の 申請は、開催日の60日前までにお願いしま す。期限を過ぎると承認が間に合わないこと があるので、ご注意ください。

■練習生技能証も写真付きに

練習生技能証カードにも顔写真をプリン トできるようになりました。ご希望の方は、 写真を申請書に貼付してください。写真は カラーで天地30mm×左右24mm。無帽、無 背景。集合・スナップ・サングラス不可。

■申請書の記入漏れにご注意!

技能証等の申請書を書き終えたら、署名、 捺印、年月日など記入漏れがないか、今一度 ご確認ください。不備があると発行が遅れ ることがありますので、ご注意を。

■教員・助教員更新の推薦書期限

教員・助教員技能証の更新に当たって、推 薦書の期限は、今年度は2007年12月31日とな りますので、お気をつけください。更新後の 技能証有効期間は、2005年1月1日~2007年 12月31日の3年間です。

7月~9月のパイロット証取得者

■フライヤー会員証はハサミで切り取り

フライヤー会員証は、まわりにミシン目 が入っていますが、切り取る時は、なるべく ハサミをご利用ください。

■フライヤー会員証が届かない場合

フライヤー会員登録の更新の際、会費振 り込みから2週間以内に、お手元に会員証が 郵送されない場合は、できるだけ早く事務 局にご連絡ください。

JHF共済事務局からのお知らせ

◆事務局の年末年始休業

JHF共済会事務局はJHF事務局内にありま す。2004年12月29日(水)から2005年1月3日 (月)までJHF事務局は休業しますので、JHF 共済事務局も業務を休みます。共済会保障プ ランの申し込み等は早めにお願いします。

◆フライヤー会員登録期限切れにご注意!

JHFフライヤー会員登録の有効期限が過 ぎていると、共済会保障プランが適用にな りません。更新手続きをお忘れなく。

JHFレポートであなたの意見を!

JHFレポートに投書欄を設けます。ハン グ・パラグライディング全般、JHFに対す るご意見ご要望などを、(社)日本ハング グライディング連盟広報出版部投稿係ま で郵便/FAX/Eメールでお送りくださ い。投稿の際は必ず氏名・電話番号を明記 してください。

郵便:〒112-0003東京都文京区

春日2-24-11 春日Shimaビル8階

FAX:03-5840-8312

 $E \times - \mathcal{V}$: koho@jhf.skysports.or.jp

(敬称略 数字は認定日)

7/2 7/2 7/2 7/7 7/7 7/7 7/7 7/9 7/9	ライ田平中後清森一金飯畑 ・一年中山沢藤水島木崎淵 ・一年中山沢藤水島木崎淵 ・一年中山沢藤水島木崎淵 ・一年中山沢藤水島木崎淵 ・一年中山沢藤水島木崎淵 ・一年中山沢藤水島木崎淵 ・一年中山沢藤水島木崎淵	7/27 関	8/20 原 奈々子 9/3 大野 拓人 7/15 江端 邦昭 8/20 德久 完治 9/3 河原 一 7/29 原田 哲平 8/20 野口 保彦 9/14 松田 隆克 8/3 園田 憲雄総 8/20 長澤 龍 9/21 安達 直人 8/9 天野 穀絵 8/24 竹内裕紀子 9/21 町崎 遠磨 8/9 秋武 宏樂 8/24 大井 意輝 9/21 山本 尋人 8/17 石松 淳 8/26 青山 善範 9/24 新居政太郎 9/3 白井 倫之 8/27 石井 清 9/24 新居政太郎 9/3 白井 倫之 8/31 金子 淳二 9/24 鈴木 惟 9/24 高木 惟吾 8/31 林 智 9/28 遠山 長寿 9/28 近藤 浩喜
7/9 7/13 7/14 7/15 7/15 7/15 7/15 7/20 7/20	飯豊遠椋熊松太三近峯憲 音話 音子 とう とう とう いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい はいい は	8/3 新開	8/31 林 智 9/28 遠山 長寿 8/31 佐藤 友紀 9/30 佐々木忠志 8/31 篠原 千愛 9/30 大山 徳子 8/17 佐藤 賢治 8/31 上遠野 修 9/30 保科 正之 9/3 乙畔 陽平 9/30 深沢希久子 8/17 津田 頼明 9/3 岩田 紀男 9/3 岩田恵美子 リンググライティング 9/24 近野 浩 9/3 人保のぞみ 7/15 仲亀 正幸 9/28 長井 朝也 9/3 福垣久司ロベルト 7/15 倉 和彦 9/28 新垣 朝也
7/22 7/22 7/23 7/27	石川 正久 横田 三郎 佐島佳穂子 山口 紀子	8/17 笠井 智子 8/17 青山 忠典 8/17 石下 文洋 8/20 小林 紀子	□訂正

●編集を終えて

間もなく熱き夏が終わりを告げようとしています。去年は 冷夏の影響で、今年は台風の影響で良いコンディションに恵 まれず、悔しい思いをした人が多々いるのではないでしょう か。しかしこれからもHG·PGともに大会が目白押しです。みな さん、安全に且つ楽しく飛びを楽しみましょう。

JHF広報出版部 矢野亥一郎

最新情報は JHF ウェブサイトでご覧ください。

http://jhf.skysports.or.jp/

JHFレポート 2004年秋号 (No.185)

発行日 2004年10月20日 定価10円 発 行 社団法人 日本ハンググライディング連盟 〒112-0003 東京都文京区春日2-24-11春日Shimaビル8階

TEL.03-5840-8311 FAX.03-5840-8312 E-mail: jhf@skysports.or.jp

JHF事務局広報出版部

日本印刷(株)